



刑法註解

第一編

鶴田



第一編 總則

第一章 法例

第一條 凡法律ニ於テ罰ス可キ罪別テ三種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

三 違警罪

諸々犯罪三ニメ止ラス何故ニ三種ニ大別スルヤ蓋シ官犯人ヲ糾治裁決スルヲ三種ニ大別シテ處分スルノ最モ簡便ナルノ故ヲ以テナリ既ニ三種ニ大別スル時ハ刑法治罪法ノ各條ニ於テ數多ノ犯罪ヲ一々

昭和九年二月五日
鶴田乙丑氏贈

記載スルノ繁~~密~~ヲ免カ~~ル~~、~~レ~~亦知ル可シ
本條此ノ刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ三種
ト為スト記セシテ凡法律ニ於テ云々ト
記載スルニ於テハ此刑法ノ外他ノ規則罰
例ニ記載スル犯罪モ亦本條ニ引擬シ三種
ニ區別シテ糾治裁決ス可キヲ明ナリ故ニ
他ノ規則ニ掲ケタル罰金ノ幾個以下ハ違
警罪禁獄ノ何月ハ輕罪等ト見做シ本刑法
第二十四條及ヒ第二十九條等ニ引照シ各
所管ノ裁判所ニ於テ處斷ス可キヲ辨ヲ待
タスシテ知ル可シ然ルニ本刑法第五條ニ
他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル
者ハ此刑法ノ總則ニ從フトアリ此條ノ反

對ノ意ヲ考フルニ他ノ法律規則ニ於テ別
ニ總則ヲ掲ケタル者ハ此ノ刑法ノ總則ニ
從フ可カラスト為ス者ニ似タリ果シテ然
ル時ハ本條凡ソ法律ニ於テ罰ス可キ罪ハ
重罪輕罪違警罪ノ三種ニ區別スト謂フト
雖モ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケ
タル者ハ又本條ニ引擬ス可カラスト疑問
ヲ起ス者アラント必セリ此ノ疑問タルヤ
其謂レナキニアラス然リト雖モ第五條ハ
他ノ法律規則ニ於テ宥恕減輕酌量減輕再
犯加重等ノ法ヲ用ヒス又數罪俱發スル時
ハ各自ニ其刑ヲ科ス等ノコトヲ特別記載セ
サル時ハ此刑法ノ總則ニ從フト可シト謂フ

義ニシテ唯々處分上ノ第一ニ關スル者トス
本條ハ他ノ法律規則ニ特例ヲ掲ケタルニ
拘ハラス諸々罪トシテ罰ス可キ者ハ本條
ニ引擬シ三種ノ區別ニ從ヒ各所管ノ裁判
所ニ於テ糾治裁決ス可シト謂フ義ナリ其
意兩條各異ナル者トス

第二條

法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所為ト雖

モ之ヲ罰スルコトヲ得ス

法律ニ於テ禁セサル所ノ所為ハ即チ為ス
可キノ所為ナリ為ス可キノ所為ヲ為シテ
罰ヲ受クルノ理アルナシ本條ハ改定律例
第九十九條ヲ改正シタル者ニ似タリ正理
ニ進ミタル法ト謂フ可シ改定律例第九十

九條ニ曰凡律例ニ罪名ナク令ニ制禁アリ
及ヒ制禁ナキ者各所犯ノ輕重ヲ量リ不應
為違令違式ヲ以テ論シ情罪重キ者ハ違制
ニ問擬スト即チ是レナリ

第三條

法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホス

コトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル
者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕ニ從テ處斷ス
本條前項ハ前條ノ餘意ヲ述フル者ナリ後
項ハ舊律施行ノ際犯シタル罪ノ新律頒布
ノ後發覺シタル時ノ處分ヲ示ス舊律トハ
新律綱領改定律例等ニシテ新律トハ此刑
法并ニ新ニ頒布スル所ノ罰則等ナリ論者

刑罰法 卷之四
曰舊法新法ノ輕重ハ比較表ヲ製シ之ヲ定
ムルニ非レハ判官ヲシテ其判断ニ惑ハシ
ムト誠ニ論者ノ説ノ如ク比較表ヲ製定ス
ルヲ得ハ更ニ喋々スルニ及ハスト雖モ未
タ其比較表ヲキニ於テハ如何ニ處分ス可
キヤ凡ソ其輕重ヲ計テ裁判スルノ方法ヲ
豫メ記憶シ置カサルヲ得ス愚考ニ於テハ
先ツ左ノ如ク裁判スルヲ稍々本條ノ意ニ
近シト思考セリ例ハ茲ニ一罪犯アリ舊
法ニ照セハ百日ト懲役トス新法ニ依レハ
三月ノ禁錮ヲ出スト雖モ三十圓ノ附加刑
アレハ舊法ニ依テ科断シ若シ其犯人富有
ナル時ハ舊法ヲ棄テ新法ニ依リ、又新法ハ

長期短期ノ間若干ノ月日アルヲ以テ其長
期ハ舊法ノ確定シタル刑期ヨリ長シト雖
モ若シ所犯情狀輕キ者ハ舊法ヲ棄テ新法
ノ短期ニ處シ、又新法ニ依レハ歳老タルヲ
以テ其刑ヲ減輕セスト雖モ舊法ニ依レハ
老者ハ收贖ヲ免スヲ以テ舊法ニ依テ處断
シ、又舊法十六歳以上ノ者ハ減輕ヲ得スト
雖モ新法ニ依レハ二十歳以下ノ者ハ減輕
ヲ得ルヲ以テ新法ニ依テ處断スル等總テ
犯人ノ身心ニ感スル所ノ輕キ刑ニ從テ處
断ス可キヲ即チ是ナリ

第四條 此刑法ハ陸海軍ニ関スル法律ヲ以テ
論ス可キ者ニ適用スルヲ得ス

軍衙ニ軍律ヲ人軍人罪ヲ犯セハ軍律ニ依
テ處断ス可キハ更ニ疑ヲ容ル、ニ足ラス
然ルニ本條陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論
ス可キ者ニ適用スルヲ得スト謂フヲ以
テ考フレハ陸海軍人ト雖モ陸海軍ノ法律
ニ關セサル罪ヲ犯ス時ハ此ノ刑法ニ依テ
處断ス可キヲ亦疑ヲ容ル、ニ足ラス故ニ
陸海軍人ト雖モ陸海軍律ニ關スルヲニ非
スシテ此ノ刑法ニ記載スル罪ヲ犯ス時ハ
此ノ刑法ニ依テ處断ス可キ者トス

第五條

此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則
ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ
若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサ

ル者ハ此刑法ノ總則ニ從フ

本條ハ此刑法ノ外他ノ法律規則ニ違背シ
タル者ハ其法律規則ニ從テ處断ス可シト
謂フヲ掲ケタリ然ルニ他ノ法律規則ニ
違背シタル者再犯ニ係ル時ハ如何數罪俱
發シタル時ハ如何減輕ス可キ情状アル時
ハ如何罰金ヲ納完セサル時ハ如何若シ他
ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ設ケテ此刑
法ノ總則ニ依ラサルヲ明記シタルニ非
サレハ此刑法ノ總則ニ從テ處断セサルヲ
得ス故ニ他ノ法律ニ違背シタル者再犯ニ
係ル時ハ陸海軍律ニ依テ處断シタル者ヲ
除クノ外罰金ノ多寡禁獄ノ長短ヲ此刑法

第二十四條 二七六條 第二十八條 二比照シ
テ加重シ數罪俱發シタル時モ亦一ノ重キ
ニ從テ處断シ減輕ス可キ情状アル者モ亦
第七十九條以下ニ照シテ減輕シ罰金ヲ納
完セサル者モ亦第二十七條第三十條ニ照
シテ處分スル等概シテ此ノ刑法ノ總則ニ
從テ處分ス可キ者トス是レ本條第二項ノ
主意ナリ

第二章 刑例

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト為ス
主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セ
サル者トヲ定ム

宣告ヲ用ヒテ附加スル者ハ罰金沒收及ヒ
輕罪ニ附加スル監視トス其宣告ヲ用ヒス
直今ニ附加スル者ハ剝奪公權停止公權禁
治産及ヒ重罪ニ附加スル監視等トス第三
十二條以下見合ス可シ

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑
ト為ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 無期添刑

五 有期流刑

六 重懲役

七 輕懲役

八 重禁獄

九 輕禁獄

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト為ス

一

重禁錮

二 輕禁錮

三 罰金

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト為ス

一 拘留

二 科料

二 科料

犯罪ヲ三種ニ大別スル時ハ又其犯罪ニ適當スル刑ヲ定メサル可カラズ此レ死刑以下各其輕重アル刑ヲ三種ノ罪ニ配當シタル所以ナリ犯罪并ニ其刑ヲ三種ニ大別スト雖モ又一般ノ犯罪中其公害ヲ為スハ更ニ輕キニ非ルモ止タ本犯ノ心事ニ於テ普通ノ刑ニ處ス可カラサル所ノ者アリ即チ國事ニ關スル罪其他惡意ノ輕キ罪是ナリ本刑法此等ノ犯罪ヲ待ツ為メニ重罪ニ於テハ徒刑懲役ノ外流刑禁獄ノ刑ヲ設ケ輕罪ニ於テハ輕禁錮ノ刑ヲ設ケタル所以ナリ但違警罪ニ至テハ其刑至輕ニシテ惡意ノ

輕重ヲ別テ其刑ヲ區別スルノ地ナシ且ツ
違警罪本條ニ依レハ此犯罪ハ惡意ノ有無
ニ関セス專ラ各種ノ規則ニ違背シタル者
ヲ罰スル法ニ係ル是レ違警罪ノ一種ノ刑
ニ從フ所以ナリ

- 第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト為
ス
- 一 剥奪公權
 - 二 停止公權
 - 三 禁治產
 - 四 監視
 - 五 罰金
 - 六 沒收

附加刑ハ主刑ト共ニ終リ又主刑期限ノ長
短ニ関セス一時ニ科断セラレ者アリト
雖モ剥奪公權監視ノ二刑ハ主刑ノ終リタ
ル後チ仍ホ終身又ハ若干時間免ルヲ得
サル者トス此ノ世ノ害ヲ為ス最モ重キ者
ハ主刑ノ終ルヲ以テ純白無痕ノ者ト等シ
ク公權ヲ行ハシム可カラヌ又世害ヲ為ス
甚タ重キニ非ラスト雖モ其罪狀ニ依リ後
来ヲ戒ム可キ者ハ主刑ノ終ルヲ以テ直チ
ニ常人視ス可カラサルヲ以テナリ是レ專
ラ世ノ安靜ヲ全フスル為メ設ケタル者ト
ス禁制ノ物件及ヒ犯罪ニ用ヒタル物件ヲ
沒收スルモ亦此意ニ外ナラス

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方

法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

主刑并ニ附加刑處分ノ細領ハ本刑法記載アリト雖モ其細目ニ至テハ能ク本刑法ノ盡ス所ニアラス此本條ヲ揭ケタル所以ナリ

第二節 主刑處分

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ

官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

古人既ニ死刑ノ存廢論アリ其論至レリ盡セリ然ルニ未タ全ク死刑ヲ廢スルニ至ラサル者ハ何ツヤ蓋シ世ノ開化未タ全ク死刑ヲ廢スルハ度ニ至ラサルヲ以テ存スル

者ナル可シ本刑法死刑ヲ設ケタリト雖モ

梟ヲ止メ斬ヲ採ラス獨リ絞ノミニ從フハ

復タ世ノ開化ニ進ミタル者ト謂フ可シ

論者曰死刑ヲ行フハ世人ノ周ク觀ル所ニ

於テスルヲ可トス然ラサレハ死刑ヲ設ケ

世人ヲ畏懼セシムル所ノ旨趣ニ背ク者ナ

リト論者ノ說其理アルニ似タリ然リト雖

モ未タ盡セリト為スニ足ラス何トナレハ

世人ノ周ク觀ル所ニ於テ之ヲ行フモ又獄

内ニ於テ之ヲ行フモ其死刑ニ處スルハ等

シクナリ既ニ死刑ニ處スルト謂ハ假令獄内

ニ於テ之ヲ行フト雖モ世人ノ心ヲシテ畏

懼セシムルニ足ルベシ然ルニナラ

ス世人ヲシテ周ク此慘状ヲ觀セシムル時
ハ飜テ苛虐ノ風ヲ學ハシムルニ至ラン是
レ立法者古來ノ實驗ニ從ヒ礫ヲ止メ梟ヲ
廢シタル所以ナリ本條獄内ニ於テ之ヲ行
フト定メタルハ正ニ此意ニ外ナラサル可
シ
第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレ
ハ之ヲ行フヲ得ス
死刑ヲ行フニ司法卿ノ命ヲ待タシムルハ
死刑ハ一タヒ決行スル時ハ復タ還ラサル
ヲ以テ其行刑ヲ懂マシムル意ニ出タル者
トス且ツ司法卿憫諒ス可キ情状ヲ發見ス
ル時ハ赦典ヲ奏請スルヲ得ルヲ以テ其命

令ヲ待タシムルヲ定メタル者ナリ
第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フ
ヲ禁ス

死刑ハ固ト不祥ノ具ナリ慶賀ノ日ニ當リ
之ヲ行フハ人情ノ喜ハサル所トス是レ本
條ノ設ケアル所以ナリ

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナ
ル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ
非サレハ刑ヲ行ハス
本條ハ舊法ニ從ヒ兒子ノ生育ヲ慮ル為メ
設クル所ノ者ナリ清律ノ註ニ曰所生ノ子
ヲ乳スル已ニ百日ニ滿レハ子哺食續命ス
可シ然後刑ヲ行フト論者曰本犯罪状惡ム

シト雖モ既ニ兒子ヲ生育スルニ於テハ復
タ寛典ノ處分ヲ奏請スルヲ得ト是レ本條
ノ餘意ヲ發スル者ナリ

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレ
ハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒテ葬ルヲ許サス
死刑ノ遺骸ヲ下付スルハ親屬故舊ノ愛情
ヲ全フスル為メナリ然リト雖モ犯罪既ニ
死刑ニ該レハ其惡極ルト謂フ可シ式ヲ用
テ葬ルヲ許サルモ亦人情ニ適フ者ト
ス是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發
遣シ定役ニ服ス
有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト為ス

佛國革命ノ後數年間無期ノ刑ヲ廢止シタ
ルヲ聞シ外各國刑法未タ無期刑ノ存廢
論アリシヲ見ス蓋シ世ノ開化未タ全ク死
刑ヲ廢スルニ至ラサレハ無期刑ノ廢セラ
レサルハ當然ノ事ナル可シ無期刑ハ固ト
死刑ノ一部ニ準スル如キ者ト雖モ直チニ
人ノ生命ヲ斷ツニ非サレハ亦死刑ト同視
ス可カラサルヲ知ル可シ故ニ今無期ノ刑
ヲ設置シタルハ其罪重クシテ人間ニ齡セ
シム可カラスト雖モ復タ直チニ刑殺スル
ニ忍ハサル者ヲ待ツ所以ナル可シ論者曰
死刑ハ一タヒ行ハハ復タ生ス可カラス無
期刑ハ生命ノ在ル有ルヲ以テ後日ノ寛典

刑罰論卷之四

ヲ得ルヲアル可シト是レ此ノ刑設置ノ餘
意ヲ發スル者ト謂フ可シ

有期重罪ノ刑各國刑法ヲ參觀スルニ大概

二十年二十五年三十年ノ長キニ至レリ實

ニ長シト謂ハサルヲ得ス本刑法其長期ヲ

十五年ニ止メタリ今暫ク近時發行ノ獨乙

國有期徒刑長短論ナル者ノ大意ヲ摘採シ

テ本條ノ註解ニ換ントス

其論ニ曰徒刑ノ長キニ過ルハ其目的ヲ達

スル能ハサルノミナラス處刑ノ効ヲ減シ

罪囚ノ懲戒ヲ得ルハ多クハ十年以內ノ刑

ニテ其期ノ長キヲ出ル能ハズ然リテ久シキ者トシ

生ハキテ其期ノ長キヲ出ル能ハズ然リテ久シキ者トシ

思想ヲ懷ルテ以テ更ニ悔悟ノ念ヲ發ス等

ツ思猛惡ナルテ以テ更ニ悔悟ノ念ヲ發ス等

種々ノ實驗アリ或ハ放免後職業ニ就ク能ハサルノ

發身者トナリ人民保護ノ為メ施行スル所

ノ刑罰ハ還テ人民社會ニ害ヲ作ルノ設ト

為ルト長キ徒刑ニ健全ナル者トシ間々健康體

ニシテ放免セヨル者トシ近ツクモ刑期ノ長

キニシテ自棄ノ者トシ是レ復タ罪ヲ犯ス故ニ獨乙

犯テ自至ル者トシ是レ復タ罪ヲ犯ス故ニ獨乙

新刑法ニ於テハ徒刑監禁ノ長期ヲ十五年

ト定メタリ漸ク期之ヲ甚タ短キニ過ルモ人患

アリ云々司法内務本條有期重罪ノ刑ノ長

期ヲ十五年ニ止メタルモ正ニ此意ニ外ナ

ラサル可シ
有期徒刑以上ノ者ヲ島地ニ發遣スルハ一
ハ其逃走ヲ防キ一ハ政府ノ便益ヲ計ルニ

出タル者ナル可シ其島地ニ在テ定役ニ服セシムル方法細目ハ別ニ規則アルヲ以テ今茲ニ之ヲ贅セス

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

本條婦女ヲ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服セシムルハ婦女ハ男夫ノ如ク勞役苦使ニ堪ヘス且又男夫ノ如ク逃走ノ患少キヲ以テノ故ナリ

第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其體カ相當ノ定役ニ服ス

本條ハ老者ヲ憐ム為メ設クル所ノ者トス老者ヲシテ壯者ト等シク勞役苦使スル時

ハ其體軀ヲ全スルヲ殆ント稀ナリ故ニ服役ノ場所ニ於テモ或ハ壯者ト各別ニ為スヲアルヘシ

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト為ス

流刑ハ國事ニ関スル犯罪ヲ待ツ為メニ設ク故ニ該囚徒ヲ島地ニ發遣スルハ餘黨ノ再發ヲ防クニ頗ル便ナリトス且ツ國事ニ関スル罪ハ其害多シト雖モ普通犯罪ノ如ク廉耻ヲ破ルニ非レハ總テ定役ニ服セス唯島地ノ獄ニ幽閉スルノミ
有期流刑ノ期限ヲ十五年ニ止メタルハ前

條徒刑ニ權衡ヲ取リタル者トス

第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルヲ得

有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ

流刑ハ定役ヲ課セス唯幽閉スルヲ以テ本則ト為スト雖モ本條記載シタル年數ヲ經能ク獄則ヲ守リ悔改ノ狀ヲ表スル者ハ亦幽閉ヲ免シ地ヲ限リ居住セシムルヲ得ル寬典ヲ受クル者トス然リト雖モ此ノ幽閉ヲ免スルヲハ政府ノ便宜處分ニ付シタル者ナルヲ以テ其悔改ノ狀ナキ者ハ決シテ幽閉ヲ免ルヲ得サルヲ必セリ本刑法

第三十六條ニ依レハ幽閉ヲ免セラレ地ヲ限リ居住スルヲ許サレタル者ハ還タ治産ノ禁ハ幾分ヲ免サル、下ヲ得ル者トス

第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト為ス

本條ハ有期徒刑ニ次ク所ノ犯罪ヲ罰スル為メニ設ク故ニ其年限ヲ十一年ニ止メタリ其島地ニ發遣セサルハ刑期ノ短キヲ以テ自カラ逃走ノ患少ク且ツ政府其手數ヲ省ク為メ内地ニ於テ定役ニ服スルヲ定

ノタル者トス

第二十三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服
セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年
以上八年以下ト為ス

本條モ亦國事ニ関スル犯罪ヲ待ツ為ノニ
設ク故ニ服役ノ法ナシ島地ニ發遣セサル
ハ流刑ニ比スレハ其罪輕キヲ以テ餘黨再
發ノ患少ク且ツ前條ト等シク政府其手數
ヲ省ク為メ内地ノ獄ニ入レ置ク者トス
本條刑ノ權衡ハ前條ニ取リタル者ナリ故
ニ其長期ヲ十一年ニ止メタリ

第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置レ重禁錮ハ

定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分タヌ十一日以上五年以下ト
為シ乃ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

輕罪ノ刑ハ其權衡ヲ重罪ニ取リ長期ノ五
年ニ止メタリ其加等ス可キ者ハ五年ヲ過
ルコアリト雖モ到底重罪ニ混セサルヲ要
シタル者トス第七十條末項ニ曰輕罪ノ刑
ハ加ヘテ重罪ニ入ルコヲ得ス但禁錮ハ加
ヘテ七年ニ至ルコヲ得ト是ナリ

本條短期ヲ十一日ト為シ長期ヲ五年ト為
スト雖モ總テノ輕罪一概本條ノ刑期ヲ科
ス可カラサルヲ以テ罪名ヲ記載スル各條
ニ於テ乃ホ其長短ヲ區別セリ例ハ夫々

ノ犯罪ハ一月以上一年以下ノ禁錮ニ處シ
又夫々ノ犯罪ハ三月以上三年以下ノ禁錮
ニ處スト記載シタルカ如シ
輕禁錮ハ服役ナシト雖モ一概國事ニ關ス
ル罪ヲ待ツ為メニ設ケタルニアラス通常
ノ罪ヲ犯ス者モ其惡意ノ輕キ時ハ仍ホ此
刑ニ處スル者トス

第二十五條 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄
ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其
幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以内ハ給與
ノ限ニ在ラス
罪犯ヲ定役ニ服スルハ勞役苦使シテ以テ惡
ヲ改メ善ニ遷ラシムルノ意ニ出ル者トス

何ノ故ニ工錢ノ幾分ヲ其犯人ニ給與スル
ヤ蓋シ資産ナキ者ハ放免ノ後其活路ヲ得
ルノ難キヲ以テ再ヒ罪ニ陷ルコトアリ因テ
其生業ヲ營マシムルノ資金ニ充ル者トス
且ツ工錢ヲ給與スルキハ大ニ其力役ヲ勉
メ随テ其惡心ヲ改ムルニ足ルヲ以テノ故
ナリ
現役百日以下ニ係ル者モ力作ノ工錢ヲ生
セサルニ非スト雖モ其期限短キヲ以テ多
クハ獄費ヲ償フニ足ラス且ツ在役經久ニ
亘ラサル者ハ世人ノ厭惡ヲ生スル薄ク随
テ生業ニ就クヲ難カラサルヲ以テ該罪犯
ニ工錢ヲ給與セサル所以ナリ

第二十六條 罰金ハ二圓以上ト為シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

刑法學者常ニ曰罪犯ヲ懲戒スルハ身體ヲ苦シメ財産ヲ徵收スルニ過ル者アラスト然ルニ彼ノ財産籍沒法ナル者廢セラレシ以來各國刑法通用貨幣ノ外他ノ財産ヲ徵收スル者ナシ既ニ罪犯ヲ懲戒スルハ財産ヲ徵收スルニ過ル者アラスト謂ハ貨幣ノ外他ノ動不動産ヲ徵收スルモ亦不可ナキニ似ソリ然ルニ獨リ貨幣ノミヲ徵收スルハ何ソヤ此レ唯ヲ官民ノ便利ヲ度ルニ出タル者ナル可シ亦活法ト謂フ可シ罰金ハ輕罪ノ主刑ナリ故ニ此刑法ノ外他

ノ規則罰例ニ於テ何千圓ノ罰金ヲ科スルモ若シ此刑法ト俱發スルキハ仍ホ輕罪ト見做シ處分ス可キ者トス故ニ此刑法ニ於テ豫メ罰金ノ多數ヲ何圓ト定メ置クキハ他ノ規則罰例ニ此刑法ニ定メタル數ヨリ多クノ罰金ヲ科スルヲアルキ何罪ト見做シ處分ス可キヤ其準繩ヲ取ルニ由ナキヲ以テ豫メ茲ニ其多數ヲ掲テサル者トス

第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス

檢察官ノ求メニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮
 ノ期限ハ二年ニ過ルヲ得ス
 若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シ
 タル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免ス但親屬其他
 ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ
 本條ハ貧窮ニシテ罰金ヲ出ス能ハサル者
 并ニ貪欲ニシテ罰金ヲ出サ、ル者ヲ罰ス
 ル為メニ設ク各國刑法罰金ヲ出サ、ル者
 ヲ禁錮スル法アリト雖モ概テ禁錮ノ期限
 一定セサルヲ以テ公平ノ處分ヲ為スヲ得
 ス故ニ本條ニ於テ六一圓ヲ一日ニ折算シ
 禁錮ニ換フルヲ定メタリ公平ヲ得タリ
 ト謂フ可シ

罰金ヲ納完セサル者ハ之ヲ禁錮ニ換フト
 雖モ其罪固ト罰金ニ該ル者ハ假令幾百千
 圓ノ罰金ヲ科セラル、モ其金額ニ應シ身
 体ヲ困苦セシム可カラサル所ノ者アリ何
 トナレハ其罪固ト輕ケレハナリ故ニ本條
 禁錮ノ期限ヲ二年ニ過ルヲ得スト定メ
 タル者ナリ
 本條ハ犯人ノ資産ヲ調査シ身代限ノ處分
 ヲ經ルノ後仍ホ納完スル能ハサル時初テ
 禁錮ニ折算スト論スル者アリ然ルト雖モ
 本條ノ文意ヲ考フレハ決シテ如此者ニ非
 ス其裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシ
 ムト謂ハハ犯人ヲシテ此間ニ於テ百方納

完ニカヲ盡サシムル意ニ非スヤ又更ニ裁
判ヲ用ヒス檢察官ノ求メニ因リ裁判官之
ヲ命スト謂ハ官ノ手數ヲ省クノ意ニ出
タル者ニ非スヤ故ニ本條禁錮ニ折算スル
ハ犯人ノ資産ヲ調査シ身代限ノ處分ニ付
スルヲ待タス唯タ一月内ニ納完セサル者
ハ直チニ禁錮ニ換フル者トス
既ニ一タヒ禁錮ニ換ハタル者ハ後日罰金
ヲ納完スルモ仍ホ放免ス可カラサルヤノ
疑ナキニアラス是レ本條末項ノ設ケアル
所以ナリ

第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服
セス其刑期ハ一日以上十日以下ト為シ仍ホ

各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以

下ト為シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス
違警罪ノ刑ハ其權衡ヲ輕罪ニ取りタル者
ナリ故ニ拘留ハ十日ヲ以テ長期ト為シ科
料ハ一圓九十五錢ヲ以テ多數ト為ス其加
等シテ十一日以上又二圓以上ニ及フ者モ
仍ホ拘留科料ノ刑名ニ從ハサルヲ得ス第
七十二條合セ見ル可シ

第三十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ

納完セシム若シ限内納完セサル者ハ第二十
七條ニ照シ之ヲ拘留ニ換フ

本條ノ意ハ第二十七條ニ同シキヲ以テ再

七 茲ニ之ヲ贅セス

第三節 附加刑處分

第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

- 一 國民ノ特權
- 二 官吏ト為ルノ權
- 三 勲章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權
- 四 外國ノ勲章ヲ佩用スルノ權
- 五 兵籍ニ入ルノ權
- 六 裁判所ニ於テ證人ト為ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス
- 七 後見人ト為ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ為メニスルハ此限ニ在ラス
- 八 分散者ノ管財人ト為リ又ハ會社及ヒ共

有財産ヲ管理スルノ權

九 學校長及ヒ教師學監ト為ルノ權

本條ハ實ニ新設ノ者ニ係ル抑々世ノ開化日ニ進ムニ從ヒ世人舊時為スヲ得サル所ノ者モ大ニ之ヲ為スヲ得舊時為スニ足ラストセシ所ノ者モ亦為ス可キトナリ舊時守ルニ足ラストセシ所ノ者モ守ル可キノ義務トナリ又舊時ナキ所ノ事ニシテ現時人ノ尊崇スル所ノナル事アル等世ノ公論既ニ舊時ニ異ナル者アレハ亦時宜ニ適當スル法ヲ制定シテ世ノ公道ヲ維持セサルヲ得ス是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

論者曰兵籍ニ入リ裁判所ニ於テ證人ト為
 リ及ヒ後見人ト為ル等ヲ免ルハ其人ヲ
 懲罰スルニ非スシテ反テ一ノ恩惠ヲ與フ
 ル者、如シ且ツ凡ソ人ノ義務ヲ國家ニ負
 フハ皆自ラ好テ之ヲ為スニ非ス已ムヲ得
 サル所アリテ苟モ免ル、一能ハサル者ナ
 リト是レ人心ニ於テ慊ヨカラサル所ヲ忍
 ンテ一時ニ偷安スル自棄者ノ言ニシテ道
 理ヲ知ル者ノ言ニ非ス何ソヤ兵籍ニ入リ
 國家ヲ保護スルハ世ノ公賞ヲ得ルトニ非
 スヤ後見人トナリ幼弱ヲ監護教育スルハ
 一族ノ尊敬ヲ得ルトニ非スヤ證人ト為リ
 裁判所ニ於テ事ノ有無信偽ヲ證言スルハ

世ノ信ヲ其人ニ置クカ為メニ非スヤ凡ソ
 是等ノ事ハ皆世人ノ榮譽トシテ尊崇スル
 所ノ者ナリ若シ一旦此等ノ權ヲ剝奪セラ
 ル、時ハ假令最下劣ノ人ト雖モ其心ニ於
 テ慊ヨキ者ニ非ス是レ本條論者ノ說アル
 ニ関セス此等ノ事ヲ掲載セシ所以ナリ
 以下項ヲ追ヒ鮮明セントス

一國民ノ特權

本條冒頭ニ於テ剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪
 スト謂フヲ以テ考フレハ國民ノ特權ト謂
 フハ公權ヨリ外ノ權ニハ非ル可シ既ニ國
 民ノ特權ト謂フヲ公權ト解スルキハ國民
 ノ特權トハ専ラ公務ニ関スル國民ノ委員

ヲ撰舉シ又其委員ニ撰舉セラル、權並ニ
代書人代言人評價人鑑定人ト為ルノ權等
トス

二官吏ト為ルノ權

官吏ト為ルノ權ト謂ヘハ現任ノ官職並ニ
將來官吏ト為ルノ權ヲ剝奪スルト及ヒ其
官等ノ高下ニ區別ナキト辨ヲ待タスレテ
明カナリ然ルニ唯准官吏ニ至テハ如何奪
否ノトニ付其疑ナキヲ得ス抑モ官吏ニ準
スル者ハ其官吏ニ準シタル官私ノ待遇ヲ
受ク可キト當然ナリ若シ官吏ニ準シタル
官私ノ待遇ヲ受クルト當然ナル時ハ其罪
ヲ犯スニ當レハ官吏ト同シク其權ヲ剝奪

三^{勲章}年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權

本項有スル權トアルニ於テハ刑ニ處セラ
ルト同時ニ位記貴號ヲ稱スルヲ得ス又
年金恩給ハ此日ヨリ止メラレ勲章ハ其籍
ヲ除却シ且ツ附與シタル章牌ハ返上セシ
ムル者トス

四外國ノ勲章ヲ佩用スルノ權

外國政府ヨリ附與シタル勲章ハ其籍ヲ除
却スルヲ得サルニヨリ但其佩用ヲ禁スル
者トス

五兵籍ニ入ルノ權

國法ヲ犯シ國家ヲ害スル者ハ國家ヲ保護

スル任ニ置ク可ラサルヤ必セリ本項ニ於
 テハ他復タ鮮明ヲ要セス
 六裁判所ニ於テ證人ト為ルノ權但單ニ事實
 ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス
 國法ヲ犯シ憚ルコトナキ者ヲシテ普通ノ良
 民ト同シク裁判所ニ於テ民刑兩事件ニ付
 證人ト為シ證據ヲ申告セシメン乎危險ノ
 甚シキ者ト謂ハサルヲ得ス既ニ國法ヲ犯
 シ憚ルナキニ於テハ何ノ惡言カ憚テ榮セ
 サランヤ是レ本項裁判所ニ於テ證人ト為
 ルヲ許サ、ル所以ナリ然リト雖モ此者ノ
 外他ニ證人トナル可キ者ナキ時又ハ證人
 アリト雖モ真證人ノ申告ノミニ於テ充分

ニナラサル時ニ際セハ亦唯此等ノ者ヲシテ
 其事實ヲ陳述セシムルモ妨ケナキ者トス
 若シ此變法ヲ設ケサルニ於テハ審判上實
 際不便ナキヲ得サルニ因リ本項但以下此
 變法ヲ設ケタル所以ナリ
 七後見人ト為ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子
 孫ノ為メニスルハ此限ニ在ラス
 八分散者ノ管財人ト為リ又ハ會社及ヒ共有
 財産ヲ管理スルノ權
 九學校長及ヒ教師學監ト為ルノ權
 以上三項皆同主意ニ出タル者ナリ不良ノ
 人ハ幼弱者ヲ監護教育スル任ニ置カシム
 可カラス又管財人管理人トシテ多數ノ人

ノ財産ヲ委任セシム可カラズ又少年ノ品行ヲ正シクスル所ノ学校長教師學監等ト為サレム可カラズ此レ皆是等ノ任ヲ授ク可キ目的ノ人ニアラサレハナリ但シ父祖タル者ノ子孫ヲ監護教育スルハ他人ト違ヒ其愛情深キヲ以テ或ハ子孫ノ便利ナルヲナキニシモアラサレハ其親屬ノ意見ニ任シ若シ其親屬益アリテ害ナレト認定スル時ハ翻テ一切後見ヲ禁スルヨリ便益アルヲ以テ第七項但以下ノ變法ヲ設ケタル者トス

第十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

抑モ公權ナル者ハ國家ヲ保護シ國民ノ名代ト為テ公務ニ関涉シ又世人ノ信用ヲ得テ事ノ有無信偽ヲ證明シ多數ノ人ノ財産ヲ管理シ又一族ノ監護者ト為リ或ハ品行ヲ正シクスル所ノ教導者ト為ル等各世人ノ榮譽トシテ尊崇スル所ノ者ニ非ルハナシ今夫レ重罪ヲ犯ス者ヲシテ此權ヲ行ハシメシムル事果シテ其任ヲ全フスルヤ否既ニ世ノ治安ヲ害スル者ニシテ焉リ能ク此任ヲ全フスルヲ得ンヤ且ツ世人ノ榮譽トシテ尊崇スル所ノ者ヲ此等犯人ヲシテ忌憚ナク行ハシメシムル事又刑法ヲ設ケ人ヲ懲戒スル所ノ意ニ反スル者ナリ故ニ本條重罪

ニ處セラレタル者ハ假令主刑ノ期限ヲ終
ヘ又ハ主刑ノ期滿免除ヲ得ルヲ以テ直チ
ニ公權ヲ行ハシメス但復權ノ法ニ因リ公
權ヲ復與スルノ外終身剝奪スル者ト定メ
タル所以ナリ

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣
告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間
公權ヲ行フヲ停止ス

前條ハ終身公權ヲ剝奪スト雖モ本條ハ輕
罪ナルヲ以テ但刑期間公權ヲ行フヲ停止
スル者トス刑期中ハ禁錮場ニ在ルヲ以テ
自然公權ヲ行フヲ得ナル可シ何故ニ本條
此事ヲ記載スルヤ蓋シ本犯禁錮ニ在リト

雖モ若シ此權ヲ停止セサル時ハ名代人ヲ
出シ公權ヲ行フヲ得ルヲ以テナリ故ニ公
主權ヲ停止セラレシ者ハ其刑期間ハ名代人
ヲ出シ公務ニ關涉セシメ及ヒ多數ノ人ノ
財産ヲ管理セシムルヲ得ス且フ位記貴
號勳章ヲ有スル者モ其刑期間ハ其位記貴
號勳章ニ屬スル待遇ヲ受クルヲ得ス又年
金恩給等モ押除セラル者トス
論者曰本條公權ヲ停止ストハ第三十一條
ニ記載シタル總テノ公權ヲ停止スルトナ
ル可シ同條第二項官吏ト為ルノ權トアル
ヲ以テ考フレハ公權ノ停止ヲ受クル時ハ
官吏ノ其職ヲ免セラルト又贅言スルニ

及ハサル可シト然ルニ本條ハ公權ヲ剝奪
スルニ非ス但刑期中暫ク停メ置ク者トス
故ニ官職ヲ失フヲ別ニ掲ケ置カサレハ
若シ其刑期ヲ終ル時ハ又直チニ元ノ官職
ニ任セサルヲ得サル不便ナキニ非ス因テ
本條現任ノ官職ヲ失ヒト謂フ語ヲ特ニ加
ヘタル者トス

第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル
者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期限間公權ヲ
行フヲ停止ス
主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者亦同シ
重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ總テ監視ニ
付スルノ外輕罪ノ刑ニ處スル者モ皇室ニ

對スル罪、貨幣並ニ官印、官文書及ヒ私印、私
書ヲ偽造スル罪、官吏財産ニ對スル罪、強盜
盜ノ罪、詐偽取財ノ罪、放火ノ罪、如キハ亦
監視ニ付ス可キ者トス此等ノ罪ヲ犯ス者
初ヨリ輕罪ニ當リ又ハ減輕ニ因リ輕罪ノ
刑ニ處セラル、ト雖モ皆各其後來ヲ戒メ
且ツ其再犯ヲ豫防セサルヲ得サル者ナリ
又此監視ニ付シタル罪人ヲシテ良民ト等
シタ公權ヲ行ハシメン乎實ニ背理ノ甚シ
キ者ト謂ハサルヲ得ス是レ本條監視ニ付
シタル者ハ其期限間公權ヲ停止シタル所
以ナリ
主刑ヲ免シ止タ監視ニ付シタル者トハ死

刑等ニ無期徒流刑ニ當ル者ノ期満免除ヲ
得及ヒ内亂ノ豫備ヲ為シ未タ其事ヲ奉ケ
サル前自首シタル者及ヒ貨幣ヲ偽造變造
シ未タ行使セサル前自首シタル者等ヲ謂
フ此等ノ犯人ハ其本刑ハ免スト雖モ仍ホ
後來ヲ豫防ス可キ者ナレハナリ
監視ニ付スル方法細目ハ別ニ規則ヲ設ク
可キヲ以テ今茲ニ之ヲ贅セス

第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別
ニ宣告ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ自カラ財
産ヲ治ムルヲ禁ス
罪囚其刑期間ハ獄中ニ在ルヲ以テ親カラ
財産ヲ治ムル能ハサルヲ復タ明カナリ然

リト雖モ法律ヲ以テ明カニ其財産ヲ治ム
ルヲ禁止セサルハ己レ手カラ之ヲ治
ムル能ハスト雖モ亦他人ニ囑託シ其財産
ヲ運用スルヲ得ルヲ以テ終ニ獄内ニ財産
ヲ取寄セ又ハ外人ニ賂遺シテ脱獄其他惡
事ヲ謀ルノ發ト為スノ患ナキニ非ス是レ
本條重罪ニ處セラレタル者ニ特ニ之ヲ禁
シタル所以ナリ
其輕罪ニ當ル者ニ治産ヲ禁セサルハ何ソ
ヤ輕罪ハ重罪ニ比スレハ自カラ其檢束薄
ク且ツ刑期ノ短キヲ以テ自然脱獄其他惡
事ヲ謀ルノ患ナク且ツ及テ刑ノ酷ニ過ル
ヲ以テノ故ナリ

第三十六條

流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル氏ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得

本刑法第二十一條ニ於テ無期流刑ノ囚五年有期流刑ノ囚三年ヲ經過シ能ク獄則ヲ守リ悔改ノ状ヲ表スル者ハ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限り居住セシムル寛典ノ法ヲ掲ケタリ既ニ地ヲ限り居住スル寛典ノ處分ヲ受クル時ハ又生業ヲ営ム法ヲ與ヘスシハアル可カラス是レ本條幽閉ヲ免セラレタル者ニ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ掲ケタル所以ナリ
本條治産ノ禁ヲ免スルモ時ト場所ト身分

第三十七條

重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用セス各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間監視ニ付ス

トニヨリ一様ニ免ヌ可キ者ニ非サレハ行政官ヲ見込ヲ以テ其幾分ヲ免スルニ定ムタル者トス
重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用セス各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間監視ニ付ス
此ノ旨ヲ為ス最モ重キ者ハ主刑ノ終ルヲ以テ直チニ常人視ス可カラス仍ホ其後來ヲ戒メ且ツ再犯ヲ豫防セサルヲ得カル者ナリ故ニ重罪ニ處セラレタル者ハ主刑ノ終ル後各本刑短期ノ三分ノ一ニ等シキ時間監視ニ付スルニ定メタル所以ナリ
本刑短期ノ三分ノ一トアルニ於テハ有期徒

刑部省 法律局

流刑ハ四年、重懲役重禁獄ハ三年、輕懲役輕禁獄ハ二年ナリトス

第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルヲ得ス

重罪ニ當ル者ハ其何罪クルヲ問ハス一切監視ニ付スルヲ以テ其宣告ヲ用ヒス自カラ附加スル者ト定メタリ輕罪ハ之ニ反シテ第三十三條ノ解ニ揭ケタル如ク總テノ輕罪中僅カニ數種ノ罪ニ過キサレヲ以テ夫々之ヲ宣告スルニ定メタル所以ナリ輕罪ニ附加スル監視ハ夫々宣告レテ之ヲ附加スト雖モ各本條ニ於テ特ニ附加ス可

キトヲ記載シタル種類ノ外亦他ノ罪ニハ附加ス可カラサルモトス

主刑ヲ免レ止メ監視ニ付シタル時此監視ハ宣告スルヤ否本刑法中其明文ナレト雖モ必ス宣告ス可キ者ナル可シ何トナレハ此主刑ヲ免レタル時付スル所ノ監視ニ長期短期ノ間アル者ニシテ其期限ヲ定メ宣告スルニ非レハ何年ノ監視ニ付セラレレヤ其期限ヲ知ルヲ得ス且ツ監視ハ固ト主刑ニ附加スル者ナルヲ以テ既ニ其主刑ヲ免レタル者ハ亦別ニ宣告ヲ為スニ非サレハ直チニ此監視ニ付セラレレ者トスルヲ得サレハナリ

第三十九條 死刑及ニ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付ス

本條亦大ニ後來ヲ豫防ス可キ罪犯ニ係ル故ニ其主刑ハ期滿免除ヲ得ルト雖モ仍ホ五年ノ監視ニ付スル者トス此五年ノ期限ハ其權衡ヲ第三十七條ニ取リタル者ナリ

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス

若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス
監視ハ總テ主刑ノ終ル後執行スル者ナル

以テ其期ヲ計算スルハ主刑終ル日ヨリ初メサルヲ得ス然リト雖モ主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ其主刑ノ執行ヲ適レタルニヨリ免除ヲ得タル日ヨリ直チニ監視ヲ執行スルヲ得ス故ニ主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ捕ニ就キタル日ヨリ其期ヲ計算シ又主刑ヲ免シタル者モ其主刑ナキヨ以テ特ニ監視ニ付スル裁判宣告ヲ為サハルヲ得ナルヲ以テ此裁判確定ノ日ヨリ其期ヲ計算スル等本條ハ各其起算ノ法ヲ示シタル者ナリ

第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スル

ヲ得

監視ノ刑タルヤ其後來ヲ戒メ且ツ再犯ヲ豫防スルニ於テハ必要ナル者ト雖モ總テ刑餘ノ人ハ世人ノ之ヲ忌嫌スル者ナリ且又監視ハ其動作進退ヲ檢束スルヲ以テ自ラ生業ヲ営ムニ於テ又妨碍ナレトセス故ニ犯人ノ情状ニ因リ順良ニシテ後來再犯ノ患ナキ者ハ行政官ノ見込ヲ以テ假リニ其監視ヲ免スルヲ得セシム然リト雖モ若シ其犯人更ニ放蕩ノ行ヒアルキハ又其赦免ヲ取消スルヲ得是レ本條假リニ免スルヲ得セシムル所以ナリ

第四十二條

附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シニ

月内ニ納完セサル時ハ第二十七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ換ヘ主刑満限ノ後之ヲ執行ス本條ノ意ハ既ニ第二十七條ニ於テ之ヲ解明セリ其輕禁錮ニ換ヘタル日數ヲ主刑満限ノ後執行スルハ其主刑執行中親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納ムルモ計リ難ク且ツ主刑ハ専ラ定役アルヲ以テ先ツ執行セシムル所以ナリ

第四十三條

左ニ記載シタル物件ハ宣告レテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ一法律ニ於テ禁制シタル物件ニ犯罪ノ用ニ供シタル物件

刑罰執行法

法務省審判局

三 犯罪ニ因テ得タル物件

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ没收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ没收スルヲ得ス

法律ニ於テ禁制シタル物件トハ世ノ風俗ヲ敗壞シ治安ヲ妨害スル物件ニ係ル既ニ此物件ハ自ラ風俗ヲ敗壞シ治安ヲ妨害スル性質ヲ備フルヲ以テ世間ニ之ヲ存在セシム可カラサル者ナリ即チ禁制シタル武器、偽造ノ貨幣、阿片烟並ニ猥褻ノ冊子、器具等ノ如シ何人ノ所有スルヲ問ハス之ヲ没

收スル所以ナリ
犯罪ノ用ニ供シタル物件トハ人ヲ殺傷シタル兇器盜罪賭博ノ用ニ供シタル器具及ヒ偽造ノ罪ヲ犯スニ用ヒタル器械其他一切ノ罪ヲ犯スニ便ヲ得ル為メ用ヒタル物件ヲ謂フ此等ノ物件ハ既ニ犯罪ヲ助ケタルヲ以テ皆之ヲ没收ス可キ者ト雖モ固ト治安ヲ妨害スル性質ヲ備フル物件ニ非レハ犯人ノ所有ニ係ルノ外之ヲ没收スルヲ得ス
犯罪ニ因テ得タル物件トハ盜取騙取シタル贓物偽造ノ品物ヲ以テ交換シタル正品物等ノ如シ若シ其盜取騙取セラレシ者知

レサル時ハ又之ヲ没收スト雖モ原来此等
ノ物品ハ皆其盜取騙取セラレシ者ニ還附
ス可キ者トス故ニ犯罪ニ因テ得タル物件
ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ没收スルコトヲ得
スト定メタル所以ナリ
右三種ノ物件ヲ没收スルノ外賣藥規則造
酒規則銃獵規則等ニ違背スル者ハ各其規
則ニ從テ没收ス可キ者トス
犯罪ニ用ヒタル物件ハ之ヲ没收スト雖モ
其人ヲ毆打シタル烟管監禁シタル家屋遺
棄シタル土地陷溺シタル池沼等ノ如ク一
概没收ス可カラサル者アル可シ又犯罪ニ
因テ得タル物件ハ所有主アレハ之ヲ没收

セスト為スト雖モ賄賂ヲ受ケ罪ヲ犯シタ
ル時其賄賂ノ如キハ所有主アリト雖モ又
之ヲ没收セサルヲ得ス又法律ニ於テ禁制
シタル物件ト雖モ偽造貨幣ノ既ニ他人ニ
轉讓シテ真貨ト同シク通用スルノ者ノ如
キハ一概没收ス可カラサルニ似タリ右等
小區別ノ下ハ判官時ニ臨テ酌処シ又ハ行
政ノ權ヲ以テ便宜ノ處分ニ付シ法文ヲ墨
守ス可カラサル者ノ如シ

刑罰法

刑罰法

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

第四節 徵償處分

第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

本條ノ裁判費用トハ證人評價人鑑定人醫師化學家等ヲ使用シタル償ヲ云フ抑モ犯罪ヲ審判スルニ該リ證人等ヲ使用スルハ公平至當ノ判断ヲ要スル為メ之ヲ使用スルヲ以テ或ハ證人等ノ義務ト為ス可キニ似タリト雖モ固ト此ノ犯罪在テ斯ノ證人等ヲ使用スルニヨリ又之ヲ其證人等ノ義務ト為スヲ得ス必ス之ニ相當ノ償ヲ為サハルヲ得ス且又證人等ノ費用ヲ犯人ニ

負擔セシメス政府ニ於テ総テ之ヲ償フ者
トスルハ犯人漫リニ僥免ヲ規圖シ無益
ノ證人等ヲ召集シ訟廷ノ煩雜ヲ生スルノ
ミナラス大ニ政府ノ事務ヲ妨碍スルニ至
ラン是レ犯人ニ此ノ費用ヲ科スル所以ナ
リ然リト雖モ又一ノ注意ヲ要スルトナリ
例ハ原告ノ差錯ヨリ輕微ノ犯罪ヲ重大
ノ犯罪ト誤認シ鄭重ノ式ヲ施スニ至テハ
犯人亦自身ヲ保護スル為メ鄭重ノ手數ヲ
為サ、ルヲ得サル可シ若シ然ルハ其費
用モ莫大ニ至ルヲアラシ之ニ其全部ヲ科
セントスルカ條理ニ適スル者ニ非ス又犯
人貧困ニシテ之ヲ償フ能ハサル者ニ其全

刑罰法

部ヲ科スルモ亦憫然ナリト云フ可シ是等
ノ場合ニ於テハ判官其情狀ヲ審査シ科額
ヲ減少シテ止タ其幾分ヲ科セサルヲ得サ
ルトアル可シ但シ其費用ノ定額ニ至テハ
他法ニ讓ルニ非レハ此刑法ノ盡ス所ニ非
ス因テ其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ
定ムト掲ケタル所以ナリ
抑モ裁判費用ヲ犯人ニ科スルト是ニ贓物
ヲ還給シ損害ヲ賠償セシムルハ刑法ニ
掲ケス他法ニ讓ルヲ可トスヘキニ似タリ
蓋シ此等ノハ皆犯罪ニ續キテ生スル者
ナルヲ以テ刑法ニ其綱領ヲ掲ケ置クヲ可
ト見認メタル者ナル可シ

刑罰法

第四十六條 犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラ
ル、ト雖モ被害者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給
損害ノ賠償ヲ免カル、トヲ得ス

舊刑法贓物ヲ追還シ棄毀シタル器物ヲ追
償シ過失殺傷ノ醫藥料理葬金并ニ毆打シ
テ殺傷シタル養贍埋葬金ヲ追給スルノ外
他ノ損害ヲ賠償セシムル法ナシ抑モ犯罪
ノ為メ損害ヲ受ケタル者ハ何ノ損害タル
ヲ問ハス其害タルニ於テハ等シク一ナリ
是レ本條他ノ損害ヲ受ケタル者モ贓物ノ
還給ヲ得ル等ト均シク犯人ノ刑ニ處セラ
ル、ト放免セララル、トヲ別タス要償ヲ得
ル、ト揚ケタル所以ナリ其放免セララル、

者ニ仍ホ此義務アルハ何ソマ抑損害ヲ賠
償セシムルハ固ト人ヲ刑スル義ニアラス
止タ其害ヲ舊ニ復セシムルノ義ナリ故ニ
罪ヲ犯ス時知覚精神ヲ喪失シタル者モ其
罪ハ論セスト雖モ仍ホ其損害ヲ賠償セシ
メ又赦ニ因テ其罪ヲ免セラル、者モ人ニ
加ヘタル損害ハ賠償セシムル者トス

第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ
還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セ
シム
本條數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給
損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシ
ムトハ共犯中ノ一人又ハ數人ニ於テ裁判

刑部
去
案
審
查
局

費用贓物先ニ損害ノ總額ヲ還償セシムル
トヲ謂フ其共犯人等各自ニ出ス可キ數ヲ
定メ一括シテ總額ヲ為シ還償スルモ敢テ
妨ケナシト雖モ抑モ此還償ハ刑ト異ナリ
刑ハ共犯人各々其己レニ科セラレタル刑
ニ服セサルヲ得スト雖モ還償ハ共犯中止
タ一人ニテ之ヲ為スモ其總額ニ滿ル時ハ
又他ノ共犯人ニ追及スルトナキ者トス

第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償
ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之
ヲ審判スルトヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアル
時ハ請求ナシト雖モ直ニ之ヲ所有主ニ還
付ス

刑ヲ宣告スルハ刑事裁判所ニ於テレ裁判
費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ民事裁判所
ニ於テ審判スルヲ本則トス然ルト雖モ同
ト是レ此等ノ請求ハ刑事ニ附帶シタル者
ナルヲ以テ本條刑事裁判所ニ於テ之ヲ審
判スルヲ得セシムルト又官私ノ便ヲ圖リ
タル者ナリ
又刑事民事兩裁判所ヲ論セス請求ナクシ
テ之ヲ還償セシムルトヲ得スト雖モ若シ
犯人贓物ヲ所持スル時ハ其請求ヲ待タス
直ニ之ヲ還付セシム是レ被害者ノ便利
ヲ圖リタル者ナリ

第五節 刑期計算

第四十九條 刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スル

ハ二十四時ヲ以テレ一月ト稱スルハ曆ニ從フ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入レ放

免ノ日ハ刑期ニ算入セス

本條ハ刑期ヲ計算スル法ヲ示レタル者ナリ

其一月ト稱スル者ヲ三十日ト定メタルハ

月ニ二十八日、三十日、三十一日ノ不同アル

ヲ以テ其中ヲ執リタル者ナリ又一年以上

ノ刑ヲ計算スルニ曆ニ從フハ計算ノ便ヲ

圖リタル者ナリ故ニ一年ノ刑ニ處セラレ

タル者其受刑ノ初日本年一月一日ニアレ

ハ来年一月一日ヲ以テ放免ノ日トス

第二項ハ例ハ本月一日、十日ハ刑ニ處セ

ラレタルハ期ノ一日ノ何時ニ於テ其宣

告ヲ受ケタルヲ論セス總テ一日ト算レ十

一日ヲ以テ放免ノ日ト為スノ意ナリ若シ

此受刑ノ初日ヲ一日ト稱スル刑ノ計算ノ

如ク總テ刑期ニ通シ初ノ宣告ヲ受ケレ

刑部 刑罰部 刑罰法 刑罰部 刑罰法

ハ受刑ノ初日ハ既ニ時間ヲ論セス一日ニ
 算入スルヲ以テ其十日ノ刑ヲ受ケシ者ハ
 毎ワモ十日ニ至ラスレテ放免ヲ得ントス
 又二日ノ刑ニ處セラレシ者ノ如キモ一日
 ノ刑期ト殆ント同レカラントスルヲ以テ
 ナリ是レ放免ノ日ハ刑期ニ算入セスト定
 メタル所以ナリ止タ一日ノ刑ニ處セラレ
 シ者ハ時間ヲ計テ放免スルニ非レハ外ニ
 此刑期計算ノ道ナケレハナリ
 第五十條 刑ハ裁判確定レタル後ニ非レハ之
 ヲ執行スルヲ得ス
 裁判確定トハ何ソヤ其上訴期限ノ終リタ
 ル者ヲ謂フ若シ限内上訴レテ前判ノ破毀

ヲ得タル時ハ其前判ニ受ケタル刑ハ其罪
 ニ當ラサルヲ以テ未タ刑ヲ宣告ヲ受ケサ
 ルニ同レ故ニ此ノ上訴限内ハ何又モ上訴
 ヲ為レ前判ノ破毀ヲ求ムルヲ得ルヲ以テ
 此ノ期限ノ終ル後ニ非レハ其刑ヲ執行ス
 ルヲ得サル者トス若シ上訴レテ破毀ヲ
 得サル時ハ其上訴審判ノ日ヲ以テ確定ト
 ス

第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス
 若シ上訴ヲ為レタル者ハ左ノ例ニ從フ
 一犯人自ら上訴シテ其上訴正當ナル者ハ前
 判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナ
 ル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス

二 檢事ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト
否トヲ分クス前判宣告ノ日ヨリ起算ス
三 上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ
其日數ヲ刑期ニ算入スルヲ得ス
本條ハ舊來慣用ノ法ニ從ヒ刑期起算ノ法
ヲ示レタル者ナリ故ニ犯人自カラ上訴シ
テ前判ノ破毀ヲ得タルキハ前判ノ宣告其
法ニ違フタルヲ以テ再ヒ審判ヲ受ケ他ノ
刑ニ問擬セラルトモ初メヨリ法ヲ弄ス
ル意ナク止タ前判ノ法ニ違フタルヲ伸雪ス
ル者ト為レ前判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算
スル者トス若シ其上訴不當ニシテ破毀ヲ
得ス即チ前判ノ法ニ適シタルキハ本犯自

刑罰法

カラ法ヲ弄スルニ當ルヲ以テ假令其身ハ
獄舎ニ拘置セラルト雖モ後判即チ其上
訴不當ノ判決ヲ受ケタル日ヨリ起算スル
者トス之ニ及レテ檢察官ノ上訴ニ係ル者
ハ本犯既ニ前判宣告ノ刑ニ甘服シタルヲ
以テ其上訴ノ破毀ヲ得ルト否トニ論ナク
前判宣告ノ日ヨリ起算スル者トス右ノ如
ク未タ其刑ノ確定セズ上訴期限中ニ在ル
者ヲ以テ刑期ニ算入スルノ意ハ上訴中ハ
其犯人ヲ獄舎ニ拘置スルヲ以テ既ニ其刑
ヲ執行シタルト同シク見做セハナリ故ニ
犯人上訴中保釋並ニ責付ヲ得タル者ハ獄
舎ニ拘置セサルヲ以テ其日數ハ刑期ニ算

刑罰法

入スルヲ得ス此場合ニ臨メハ犯人ヲ獄
舎ニ入レタル日ヨリ其期ヲ起算スル者ト
ス
或ル論者ハ刑期ハ終テ確定ノ日ヨリ起算
スルトニ定ム可レ否ラスレテ本條ノ如ク
定ムル片ハ左ノ如キ不便ヲ生セン例ハ
犯人初判ノ宣告ニ服セヌ大審院ニ上告シ
其初判ノ刑ノ破毀ヲ得タリ因テ大審院更
ニ他ノ裁判所ニ移レテ其ノ罪ヲ審判セシ
メシニ此ノ審判ニ於テハ初判ノ刑ニ異ナ
ラサル宣告ヲ為セリ因テ再ヒ大審院ニ上
告セシニ今回ハ大審院初メノ判決ト違ヒ
其上告不當ニシテ審判ノ法ニ適シタル判

刑罰法
第...
第...

決ヲ為シタリ然レバ何ノ日ヲ以テ此ノ
刑期ヲ起算セントスル乎初度ノ上告ニ破
毀ヲ得タルヲ以テ初判宣告ノ日ヨリ起算
セシトスル乎再度ノ上告ハ不當トシテ破
毀ヲ得サリレ一度ハ破毀ヲ得一度ハ破毀
ヲ得サルヲ以テ起算ノ日ヲ定ムルト殆ン
ト困難ナル可レ此等ノ不便アルヲ以テ總
テ刑期ハ確定シタル日ヨリ起算スルトニ
定ム可レト説ク者アリ然リト雖モ實際此
等ノ事ノ多クアル者ニ非ス止テ稀ニアル
トナル可レ抑モ犯人ハ早ク其刑ヲ終ラン
トスル者ナリ若シ檢察官ノ上告ヲ為シタ
ル氏ハ如何既ニ初判ノ刑ニ服シタル犯

刑罰法
第...
第...

人ノ迷惑実ニ甚シカル可シ此ノ例ノ如キ
稀有ノ事ヲ以テ初判ノ刑ニ甘服シタル然
テノ犯人ノ獄舎ニ拘置シタル日數ヲ刑期
ニ算入セサルハ不公平ト謂ハサルヲ得ス
是レ本條論者ノ異議アルニ拘ハラヌ犯人
ノ刑期ヲ早ク過サレメントスル主義ニ
舊來ノ慣用ニ從ヒ設立シタル所ノ者ナリ
第五十二條 刑期限内逃走シ再ヒ捕テ就キタ
ル者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ
計算ス
舊法ハ刑期限内ニ在テ逃走スル者ハ總テ
就新ニ役ヲ科シ逃走前經過シタル日數ハ
刑期ニ算入スルヲ許サザリシ然ルニ本

條ノ如ク逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日
ヲ刑期ニ計算スルハ舊法ニ比スレハ頗ル
寛恕ヲ與ヘタル者ナリ

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者
獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀アル時ハ其刑期四分
ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假リ
ニ出獄ヲ許スコヲ得
無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同
シ
流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スル
ノ外假出獄ノ例ヲ用ヒス
假出獄ノ法ハ各國刑法多ク設ケサル所ノ
者ナリ犯人ニ此恩典ヲ與フルハ大ニ國家
ノ利益ナルヲ以テ近來往々此法ヲ設置ス
ルニ至レリ抑モ此假出獄ヲ許スニ三ツノ

第六節 假出獄

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者
獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀アル時ハ其刑期四分
ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假リ
ニ出獄ヲ許スコヲ得
無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同
シ
流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スル
ノ外假出獄ノ例ヲ用ヒス
假出獄ノ法ハ各國刑法多ク設ケサル所ノ
者ナリ犯人ニ此恩典ヲ與フルハ大ニ國家
ノ利益ナルヲ以テ近來往々此法ヲ設置ス
ルニ至レリ抑モ此假出獄ヲ許スニ三ツノ

理由アリ第一、犯人刑期内ニ在ル者モ假リニ獄ヲ出シ外人ニ接近セシメ生業ヲ営マシムルキハ總テノ犯人ヲシテ入獄ノ日ヨリ順良ノ心ヲ起シ其善行ヲ勸ムルニ足ル者トス加之此ノ順良ノ心ヲ起シ峻改ノ状ヲ表スル者ヲ假リニ出獄セシムルキハ自然他ノ犯人ヲシテ峻改ノ情ヲ起サシムルニ定ル者ナリ第二、總テ犯人ハ長ク獄中ニ起居スルキハ他日放免ノ時直チニ生業ニ就クヲ難キ者トス故ニ峻改ノ状ヲ表スル者ハ刑期内ニ在ルモ假リニ獄ヲ出シ外人ニ接近セシメ他日生業ヲ営ムヲ難カラサラシム第三、犯人ヲ長キ時間獄場ニ置クハ

ハ徒ニ身体ノ萎衰ヲ招クノミナラス大抵犯人ヲ懲戒スル期限ニハ其定度アル者ニシテ其期限ノ長キニ過ルキハ犯人自ラ人間ニ齡セントスルノ念ヲ絶テ順良ノ心ヲ起スニ至ラス且又外人ニ於テモ期限ノ長キニ從ヒ其犯人ヲ厭惡スルヲ愈々厚キ者トス隨テ犯人ヲシテ益々自棄ノ心ヲ長セシメ終ニ犯人ヲ懲戒スル所ノ意ニ反スル果ヲ結フニ至ル者アリ是レ假出獄ヲ許ス第三ノ理由トス
假出獄ヲ許スノ理由ハ右ノ如シト雖モ其能ク獄則ヲ謹守シ峻改ノ状アル者ニシテ又刑期ノ多分ヲ經過シタル者ニ非レハ初

刑罰法草案 審判部
メヨリ何人モ假出獄ヲ許サ、ル者ナリ何
トナレハ峻改ノ状ナキ者ハ假出獄ノ恩典
ヲ與フル理由ニ反シ且ツ未タ其刑期ノ幾
分モ過キサル内出獄ヲ許スハ亦世人ノ
戒メラ為スニ足ラサレハナリ
假出獄ヲ許ス法方細目ニ至テハ別ニ規則
ヲ設ク可キヲ以テ今茲ニ之ヲ贅セス
無期ノ刑ニ処セラレタル者ニ此恩典ヲ與
フルハ其体軀ヲ健全ナラシメ仍ホ世ニ望ミ
ラ絶々シメサル為メナリ
流刑ニ処セラレタル囚徒ハ幽閉ヲ免スル
法アルヲ以テ假出獄ノ法ヲ用ヒサル者ト
ス

第五十四條

徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サレタル
雖モ仍ホ島地ニ居住セシムル
徒刑ニ處セラレタル囚徒ハ假出獄ヲ許ス
ト雖モ島地ニ發遣スルヲ以テ流刑ニ處セ
ラレシ者ト同シク其刑期間ハ島地ニ居住
セシムル者トス

第五十五條

假出獄ヲ許サレタル者ハ行政
處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトヲ得
但本刑期限内ハ特別ニ定メタル監視ニ付ス
假出獄ヲ許サレタル者ハ外人ニ接近シ生
業ヲ営ムヲ以テ治産ノ禁モ亦其幾分ハ免
セサルヲ得ス止々未タ其刑期ヲ終リタル
者ニ非レハ普通ノ監視ニ嚴ナル所ノ特別

ノ監視ニ付スル者トス
第五十六條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

本條ハ假出獄ノ許可ヲ停止セララル、場合ヲ云フ其再ヒ重罪輕罪ヲ犯ス者ハ假出獄ヲ許シタル理由ニ背反シタル所行ヲ為スヲ以テ直チニ出獄ヲ停止シ其出獄中ニ經過シタル日數ハ刑期ニ算入セサル者トス
其一旦假出獄ヲ許シタル者ハ重罪輕罪ヲ犯スニ非レハ其許可ヲ停止ス可カラサルコトニ定メタルハ行政官ニ於テ他ノ事故ヲ以テ擅ニ之ヲ停止スルヲ得ル時ハ假出獄

ヲ許シタル動ヲ減スルニ至ルヲ以テ是故ナリ

第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サス
本條ニ記載シタル者ハ更ニ假出獄ヲ許ス可キ理由ナキ者ナリ止メ第五十三條ノ變例ヲ揭ケタル者トス即チ悔改ノ状アル者モ刑期限内ニ在テ再ヒ罪ヲ犯スニ至ル者ハ更ニ假出獄ヲ恩典ヲ與ヘスト定メタル者ナリ

第七節 期滿免除

第五十八條 刑ノ執行ヲ適レタル者法律ニ定メタル期限ヲ經過スルニ因テ期滿免限ヲ得

舊刑法舊惡減免ノ法アリ舊惡減免ノ法ハ
罪ヲ犯シ未タ發覺セスシテ若干年間ヲ經
タル者ヲ減免スル者ナリ己ニ其罪發覺シ
刑ノ宣告ヲ受クルノ後其刑ノ執行ヲ適シ
テ若干年間ヲ經シ者ヲ不問ニ置クハ又本
邦創メテ設クル所ノ法ナリ本条期滿免除
ト云フハ己ニ刑ノ宣告ヲ受ケ其刑ノ執行
ヲ適レ若干年間ヲ經タル者ヲ不問ニ置ク
ト云フ、罪ヲ犯シ己ニ刑ノ宣告ヲ受ケシ
者ハ假令何年間其刑ノ執行ヲ適ル、ト雖
モ決シテ不問ニ置クノ理ナシ是レ犯人ノ
脱逃ヲ懲息スル者ナリ是レ犯罪ヲ幫助ス
ル者ナリ是レ犯人ヲ懲戒スル權ヲ奪得ス

ル者ナリ等喋々論シテ止マサル者アリト
雖モ抑モ期滿免除ノ法タル左ノ理由ニ因
テ設置シタル者ニシテ頗ル正理人情ニ適
合スル者トス第一、刑ノ執行ヲ適ル、者ニ
十年乃至三十年ノ久シキニ及ラキハ人生
ノ消長思想ノ變替アルノミナラス又世態
ノ變遷ナキヲ保ス可カラズ遂ニ世人ノ犯
者アリシヲ忘失スルニ至ル者ナリ第二、罪
人ノ兇惡ナル當時世人ヲシテ恐怖セシム
ト雖モ星霜ヲ經ルノ久シキニ隨テ恐怖ノ
念慮消滅スルモノナリ然ルニ尚ホ之ヲ刑
ヤント欲スルカ翻テ憫憐ノ情ヲ起シ其殘
酷ヲ谷ハルニ至ル者ナリ第三、犯人逃避中

ハ其發覺ヲ恐レ小心謹行千辛萬苦其刑ニ
就キタルニ劣ラサル苦勞アル可シ抑モ罪
人ニ刑ヲ科スルハ其後來ヲ懲戒シ再ヒ罪
ニ犯サシメサルヲ要スルモノナリ故ニ其
逃避中毫モ惡事ヲ為ササルニ於テハ己ニ
良氏ニ化シ其刑ノ効ヲ奏セタル者ト見做
サ、ルヲ得ス右等ノ理由アルヲ以テ本刑
法期滿免除ノ法ヲ設ケタル所以ナリ

- 第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除
ヲ得
- 一死刑ハ三十年
 - 二無期徒刑ハ二十五年
 - 三有期徒流刑ハ二十年

- 四重懲役重禁獄ハ十五年
 - 五輕懲役輕禁獄ハ十年
 - 六禁錮罰金ハ七年
 - 七拘留科料ハ一年
- 各國刑法ヲ參觀スルニ刑ノ期滿免除ハ大
抵重罪ハ十五年以上三十年以下、輕罪ハ三
年以上十年以下、違警罪ハ一年以上二年以
下ノ間ヲ出テス本條死刑ヲ三十年ト定メ
タルヲ以テ無期徒刑以下其年限ヲ遍減
シテ輕罪ハ七年違警罪ハ一年ト定メタリ
- 第六十條 剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿
免除ヲ得ス
- 附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得

刑部
司
局

没收ハ五年ヲ経テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ
期滿免除ノ限ニアラス

本條ハ前條ニ稍々異ナル例ヲ掲ケタル者
ナリ剥奪公權ハ第三十一條ニ記載シタル
諸權ヲ終身剥奪スル者ニシテ本犯主刑ノ
期滿免除ヲ得ルノ後竊カニ此諸權ヲ行ハ
ントスル乎同條中ニ三ノ權ハ竊カニ行フ
ヲ得可シト雖モ總テノ權ハ決シテ行フヲ
得可キ者ニ非ス若シ又此權ヲ行ハサル乎
即チ其刑ニ服シタル者ナリ故ニ此刑ニ於
テハ期滿免除ヲ得サル者トス又監視ハ犯
人主刑ノ終リ後チ仍ホ其再犯ヲ豫防スル
為メ政府ノ視察ヲ加フル者ナレハ主刑ノ

期滿免除ヲ得ルヲ以テ此監視ノ刑ヲ免除
スルヲ得サル者トス既ニ監視ニ付シタル
者ノ期滿免除ヲ得サルハ停止公權ハ監視
視ニ付シタル者ハ必ス附加スル所ノ刑ナ
ルヲ以テ亦期滿免除ヲ得サル者トス
附加ノ罰金ノ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得ル
ハ主刑ニ附加シタル者ナレハナリ
本刑法沒收ス可キ物件ハ第一、法律ニ於テ
禁制シタル物件第二、犯罪ノ用ニ供シタル
物件第三、犯罪ニ因テ得タル物件トス故ニ
第一、即チ法律ニ於テ禁制シタル物件ハ自
カラ風俗ヲ敗壞シ治安ヲ妨害スル性質ヲ
備フルヲ以テ期滿免除ヲ得サル者トス第

刑罰法 第三、ノ物件ニ至テハ違警罪以上死刑ニ
至ル迄各其犯罪ニ用ヒ及ヒ其犯罪ニ因テ
得タル物件ナルヲ以テ主刑ノ輕重ニ從ヒ
其期滿免除ノ期限ヲ異ニス可キニ似タリ
ト雖モ右ノ如ク定ムル時ハ實際上不便多ク
且ツ但夕物件ノミニ係ルヲ以テ輕罪ノ次
キ即チ五年ヲ以テ期滿免除ノ限ト定メタ
ル者トス

第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ適レタル
日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル
時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ關席裁判ニ係ル
時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス
本條ハ期滿免除ヲ起算スル例ヲ示シタル

者ナリ裁判確定ノ後其刑ノ執行ヲ適レタル
ル者ハ其執行ヲ適レタル日ヨリ起算シ若
シ逃走シテ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル者ハ
又其逃走ノ日ヨリ起算スル者トス其關席
裁判ニ係ル者ハ本犯訟庭ニ出頭セス刑ノ
宣告ヲ受ケタルヲ以テ若シ出頭シテ不服
ヲ訴フル時ハ何時ニ於テモ改正スルヲ得
可キニヨリ宣告ノ日ヨリ起算スルヲ定
メタル者トス

第六十二條 刑ノ執行ヲ適レタル者ニ對シ逮
捕ヲ命シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日
ヨリ期滿免除ヲ起算ス

本條ハ前條ノ變例ヲ掲ケタル者ナリ刑ノ

執行ヲ適レタル者逮捕ヲ受ケスト雖モ其
犯人ニ對シ令狀ヲ出シタル時ハ其令狀ヲ
出シタル終リノ日ヨリ期滿免除ヲ起算ス
ル者トス令狀ノ事ハ治罪法ニ審カナリ就
テ見ル可シ

第八節 復権

第六十三條 公権ヲ剥奪セラレタル者ハ主刑
ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情
狀ニ因リ将来ノ公権ヲ復スルヲ得
主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタ
ル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同シ
復権ヲ施行スル方法細目ハ別ニ規則ヲ設
ケタルニ非サレハ此刑法ノ盡ス所ニ非ス故

ニ本刑法ニ於テハ止タ犯人ニ公権ヲ復與
スル大綱ヲ掲ケタリ抑モ剥奪公権ハ終身
ノ刑ナリ且ツ期滿免除ヲ得サル者トス若
シ犯人主刑ノ終ル後其良心ニ復シ順良方
正ニシテ常人ニ異ナラサル行ヒアル時ハ
此ノ法ヲ設ケテ以テ其公権ヲ復與セサル
ヲ得ス若シ此ノ法ヲ設ケテ其公権ヲ復與
セサル時ハ此ノ刑ニ處セラレタル犯人ハ
其良心ヲ起スノ道ヲ塞クノミナラス既ニ
順良方正ノ行ヒアル者ハ實ニ憫然ニ堪ヘ
サル者ナリ是レ此法ヲ設ケタル所以ナリ
然リト雖モ犯人主刑ノ終リタル日并ニ期
滿免除ノ得タル日直ニ公権ヲ復與スル

申ハ還タ此ノ刑ヲ附加シタル所ノ効ヲ減却スルヲ以テ其刑ニ服スルノ後五年ヲ経過シタル者ニ非レハ此ノ恩典ヲ與ヘサル者トス

本條公權ヲ復スト謂ハハ字面上ニ就テ之ヲ觀ル申ハ既ニ剥奪シタル所ノ年金恩給等モ復與セサルヲ得サルヲ以テ特ニ將來ノ二字ヲ加ヘタル者ナリ

第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復權ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非レハ復權ヲ得ス
赦ニ因テ復權ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免レタル者トス

赦ハ固ト君主ノ慈心並ニ政ヲ為スノ權略ニ出ル者ナリ本邦從來ノ制大赦ハ廣ク天下ノ罪囚ヲ赦免シ特赦ハ特ニ一人又ハ數人ノ罪ヲ赦スノ義ナリレ然ルニ本條大赦ト謂フハ佛國ノ法ニ擬レ一種ノ罪犯ニ對シ刑名宣告ノ前後ヲ論セス告訴ノ權逮捕ノ權刑罰執行ノ權等悉ク之ヲ消滅セシムルノ義特赦ハ一箇ノ犯人ニ對シ刑名宣告ノ後刑ノ執行ノニ其全部又ハ一部ヲ赦免スルノ義ト定メタリ故ニ大赦ハ全ク其罪ヲ免スヲ以テ公權モ亦直チニ復與レ本犯再ヒ罪ヲ犯スモ犯數ニ計ヘサル者トス特赦ハ刑ノ一部又ハ全部ヲ免ス者ナルヲ以

テ其赦ヲ以テ特ニ公推ヲ復與シタル者ニ
非レハ其公推ハ復與セサル者トス
犯罪既ニ赦典ヲ得可キ者ハ其再犯ヲ豫防
スルニ及ハサル者トス故ニ赦ニ因テ復權
ヲ得タル者ハ其監視ノ附加刑モ自カラ免
シタル者トス

第六十五條 復權ハ勅裁ニ非カレハ之ヲ得可
カラス

復權ハ固ト赦典ニ類スル者ナルヲ以テ本
條勅裁ニ非カレハ之ヲ得可カラスト定メ
タル所以ナリ

第三章 加減例

第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ
時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減
ス但加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス

本條以下刑ノ加重減輕ノ例ヲ掲ケタル者
ナリ其要六ツアリ重罪ヲ加等シテ死ニ入
ルヲ得ス、輕罪ヲ加等シテ重罪ニ入ルヲ
得ス、國事ニ關スル犯罪ト通常ノ犯罪ト加
減ノ順序ヲ異ニス、禁錮罰金ハ各一ノ刑名
ナルヲ以テ重罪ト其加減ノ法ヲ同シクセ
ス、各種ノ犯罪ヲ減輕シテ拘留ノ一日科料
ノ五錢以下ニ降スヲ得サルヲ等トス、此

ノ條ハ特ニ處刑ノ各本條ニ於テ何等ヲ加
ヘ何等ヲ減スト記載シアル時ハ後ノ數條
即チ第六十七條以下ニ照シテ加重減輕ス
可シト謂フ義ヲ掲ケタル者トス以下各條
ニ就キ解明セントス

第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加
減ス

- 一 死刑
 - 二 無期徒刑
 - 三 有期徒刑
 - 四 重懲役
 - 五 輕懲役
- 本條ハ通常犯罪加減ノ法ヲ示シタル者ナ

リ故ニ本刑重懲役ニ該ル者一等若クハ二
等ヲ加フレハ第七條ニ照セハ流刑ニ處ス
可キ頃ニ當ルト雖モ流刑ニ從ハス徒刑ニ
處シ又二等ヲ減スレハ重禁獄ニ處ス可キ
頃ニ當ルト雖モ禁獄ニ從ハス二年以上五
年以下ノ重禁錮ニ處スル者トス

第六十八條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等
級ニ照シテ加減ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 重禁獄
- 五 輕禁獄

本條ハ國事ニ関スル犯罪ノ加減法ヲ示シ
タル者ナリ故ニ流刑ヲ減スレハ禁獄ニ從
ヒ又禁獄ニ加等スレハ流刑ニ從フ者トス
第六十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ
二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ
一等ト為ス
輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五
年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト為ス
處刑ノ各本條ニ記載シタル輕罪ノ刑中其
重キ者ハ二年以上五年以下ノ禁錮トス故
ニ輕懲役輕禁獄ニ該ル者一等ヲ減スレハ
二年以上五年以下ノ禁錮ニ處スルヲ其順
序トス

第七十條 禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ
各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ
減スルヲ以テ一等ト為シ其加重ス可キ時ハ
亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト為ス
輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但禁
錮ハ加ヘテ七年ニ至ルヲ得
禁錮罰金ハ各一ノ刑ナルヲ以テ若シ重罪
ノ刑ノ如ク加減ノ法ヲ設クルハ一等ヲ
加フレハ直チニ重罪ニ入レサルヲ得ス又
一等ヲ減スレハ直チニ違警罪ニ降サハル
ヲ得ス一等ヲ加ヘ直チニ重罪ニ入ラス一
等ヲ減シ直チニ違警罪ニ降ラストモ固ト
此ノ刑ハ長期短期多數寡數ノ間アル刑ナ

刑法典卷之四

ルヲ以テ若シ一等ヲ加ヘ長期多数以上ニ
處セントスル時ハ二等ヲ加フル片ハ何年
何圓ニ處ス可キヤ其加等ノ標準ヲ取ルノ
基椽ナカル可シ且ツ加等シテ長期以上ニ
處スルト定ムル片ハ其本刑長期五年ニ該
ル者ハ一等ヲ加フル時ハ每五年以上即チ
重罪ニ均シキ刑ニ處セ^ルヲ得サル可シ又
一等ヲ減スル片ハ其本刑ノ短期寡数以下
ニ處セントスル乎二等ヲ減スル片ハ如何
是レ亦其減輕ノ標準ヲ取ル者ナカル可シ
故ニ禁錮罰金ノ刑ハ先ツ各本条ニ記載シ
タル刑期金額ヲ以テ一ノ基礎ト定メ一等
ヲ加フル片ハ其基礎タル刑期金額ノ四分

刑罰法第...
第...
第...

一 即チ禁錮ノ長期短期罰金ノ多数寡数
ノ四分ノ一ヲ其基礎タル刑ニ豫メ加ヘ置
キ然ル後犯人ニ其刑ヲ宣告スル者トス故
ニ其基礎タル刑二年以上四年以下ノ禁錮
二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ該ル片ハ四
分ノ一ヲ加フルヲ以テ其刑ハ二年半以上
五年以下ノ禁錮二圓五十錢以上二十五圓
以下ノ罰金トナルヲ以テ犯情輕キ者ト雖
モ二年半以下ノ禁錮二圓五十錢以下ノ罰
金ヲ宣告スルヲ得ス復タ其犯情重キ者ハ
五年ノ禁錮二十五圓ノ罰金ニ處スルヲ得
ル者トス若シ二等ヲ加フル片ハ三年以上
六年以下ノ禁錮三圓以上三十圓以下ノ罰

刑罰法第...
第...
第...

金トナル以テ犯情重キ者ハ六年ノ禁錮三十圓ノ罰金ニ處スルヲ得之ニ反シテ此基礎タル刑ニ一等ヲ減スルハ一年半以上三年以下ノ禁錮一圓五十錢以上十五圓以下ノ罰金トナルヲ以テ犯情重キ者ト雖モ三年ノ禁錮十五圓ノ罰金ヲ過ルヲ得ス又其犯情輕キ者ハ一年半ノ禁錮一圓五十錢ノ科料ニ處スルヲ得本條加重減輕ノ法タル右ノ例ノ如キ者ナルヲ以テ判官刑ヲ宣告スルニ望^臨ノハ其判文ニ何年ノ禁錮何圓ノ罰金ニ處^臨ノ可キノ處何等ヲ加ヘ又ハ何等ヲ減シテ何年ノ禁錮何圓ノ罰金ニ處スト記載セサルヲ得ス然ラサレハ其本刑

刑罰法典卷之六

ニ長期短期多數寡數ノ間アルヲ以テ加重減輕ノ意ヲ盡スト雖モ若シ其本刑ノ長期短期多數寡數ノ間ヲ出テサルハ加重減輕シタル効見ハレサレハナリ間々亦加重ノ法ヲ用ヒテ禁錮ノミ本刑ノ長期以上ニ處シ附加シタル罰金ハ加等シタル寡數ニ從ヒ或ハ附加シタル罰金ヲ多數以上ニ處シ禁錮ハ加等シタル短期ニ止メ又減輕ノ法ヲ用ヒテ禁錮ハ本刑ノ短期以下ニ降シ附加シタル罰金ハ減等シタル多數ニ止メ或ハ附加シタル罰金ハ寡數以下ニ降シ禁錮ハ減等シタル長期ニ止ムル等ノ事アル可キヲ以テ判官此ノ加重減輕ノ法ヲ用ス

刑罰法典卷之六

ルキハ能ク注意セスンハアル可ラサル者
ナリ
軽罪ノ主刑タル禁錮ハ固ト五年ヲ以テ其
長期トス故ニ若シ此刑ヲ加等スルキハ加
ヘテ重罪ニ入ル、一ニ定メシ乎抑モ加等
ノ法タル本罪ハ固ト重キ者ニ非ス但ク其
犯人再犯ニ係ル乎又ハ二人以上通謀シテ
犯スニ係ル乎又ハ特別ニ情罪惡ム可キ者
ヲ待ツ為メニ設ケタル者ニシテ直チニ重
罪ヲ犯シタル者ニ非サルハ加等シテ重罪
ニ入ル、ハ甚タ苛酷ニ過ル者ナリ然ルキ
ハ此刑ハ加等スト雖モ重罪ノ刑期ニ侵入
スルヲ許サス五年ヲ以テ其止リト定メシ

乎若シ然ルキハ本刑五年ニ該ル者ハ總テ
加等スルヲ得サル可シ且ツ重罪ニ於テ
ハ終身公權ヲ剥奪シ又監視ハ總テ免カル
、一ヲ得ス之ニ及シテ輕罪ハ但ク刑期間
公權ヲ停止シ又特別ニ後來ヲ豫防ス可キ
罪ノ外監視ニ附スルヲ得サルヲ以テ加
等シテ五年以上ニ及ホスモ重罪ト其輕重
大ニ異ナル者トス然リト雖モ本刑長期五
年ニ該ル者ニ二等ヲ加フレハ七年半三等
ヲ加フレハ八年九月ノ長キニ至ルヲ以テ
剥奪公權監視ノ附加刑ナシト雖モ其實重
罪ノ刑ヨリ重キニ至ル右等ノ不便アルニ
因リ此刑ハ其禁錮ヲ加ヘテ七年ニ至ル

ヲ得ト定メタル者トス本條第二項即チ是ナリ

第七十一條 禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルヲ得

禁錮罰金ノ減等法ハ其刑期金額ノ四分ノ一ヲ一等ト為シ減等スルヲ以テ四等ヲ減スルキハ毎ワモ減シ盡ス者トナル禁錮罰金ハ減シ盡シタリトモ直チニ放免スルヲ得ス因テ禁錮ヲ減盡シタルキハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタルキハ科料ニ處スト定

メタリ故ニ此場合ニ望メハ判官ノ見込ヨリ一日以上十日以下及ヒ五錢以上一圓九十五錢以下ノ間ヲ以テ適當ト思フ所ノ刑期金額ヲ科スルヲ得

又最モ輕キ禁錮罰金ニ該ル者ハ其刑期短ク金額寡キヲ以テ一等ヲ減スルモ其短期十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及フアリ十日以下一圓九十五錢以下ノ刑ハ拘留科料ノ本刑ナルヲ以テ右ノ如ク減等シテ短期ノ十日以下寡數ノ一圓九十五錢以下ニ及フ者ハ又判官ノ見込ヲ以テ拘留科料ニ處スルモ不可ナキ者ナリ然ルニ其長期多數ハ仍小輕罪ノ刑期金額中ニ在ルヲ

以テ禁錮罰金ニ從テ處断スルモ亦可ナル者トス

第七十二條 拘留料料ニ該ル者加減ス可キ時ハ禁錮罰金ノ例ニ照シテ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト為ス
違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ル丁ヲ得ス但拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ル丁ヲ得減シテ一日以下ニ降ス丁ヲ得ス料料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ル丁ヲ得減シテ五錢以下ニ降ス丁ヲ得ス

ホ余ノ注解ハ第七十條ニ同シキヲ以テ再々茲ニ之ヲ贅ヒス其減シテ拘留ノ一日料料ノ五錢以下ニ降ス丁ヲ得ナルハ固ト罪

アル者ヲ減等ヲ以テ直テニ放免ス可カラサルニヨリ本刑法中最モ輕キ所ノ刑ニ止メタル者ナリ故ニ拘留料料ハ實際三等以上ハ減等ヲ用フル丁ヲ得サル者トス

第七十三條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

輕キ刑期ニ該ル者ハ四分ノ一ヲ加減スル片ハ一日ニ滿サル期限ノ零數ヲ生スル丁多シ罰金ハ零數ヲ生スルトモ徵收ニ不便ナシト雖モ禁錮拘留ニ至テハ一日ニ滿サル零數ノ時間禁錮拘留スルハ甚々體裁宜シカラサルヲ以テ此零數ハ除棄スル者トス

第七十四條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ
其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト
為ス若シ減盡シタル時ハ止メ主刑ヲ科ス
本條ハ附加ノ罰金ノ加減法ヲ示シタル者
ナリ即チ此ノ罰金ハ主刑ニ附加シタル者
ナルヲ以テ主刑ノ加減スルニ從ヒ共ニ四
分ノ一ヲ以テ一等ト為シ加減スル者トス
其罰金ヲ減盡シタル片ハ第七十一條ノ例
ニ照シテ科料ニ處セス止メ主刑ノミヲ科
スルニ科料ハ本ト附加ノ刑ニ非サルヲ以
テ附加ノ罰金ヲ減盡シタル片附加刑ニ非
サル科料ニ換フルヲ得サルニヨリ但メ主
刑ノ拘留ニ處スルノミ

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥減輕

第七十五條 抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其

意ニ非サルノ所為ハ其罪ヲ論セス
天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危
難ニ遇モ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スル
ニ出タル所為亦同シ

法律ニ違背シタル所為ヲ為ス者ハ其罪ヲ
免カル、ヲ得サルハ刑法ヲ設置シテ人ヲ
懲戒スル所ノ根本ノ主意トス本條以下各
條其罪ト為ル可キ所為ヲ為スト雖モ自己
ノ意ニ非スシテ為シタルヲ以テ其罪ニ論
セサル非常ノ例ヲ掲ケタル者ナリ本條第

一項抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ
非サルノ所為トハ拒キ止ム可カラサル威
迫強制ニシテ此強制ナキ片ハ決シテ此所
為ヲ為サス即チ已レ自カラ此威迫強制ヲ
避クル為メ為シタル者ニシテ自己ノ意ヲ
以テ為シタル所為ニ非サルヲ云フ例ヘ
ハ甲乙ヲ捕ヘ汝チ丙ヲ殺ス可シ否ラサレ
ハ吾レ汝チヲ殺サント恐喝セシ片甲ノ威
迫甚タ強クシテ丙ヲ殺スニ非レハ乙自己
ノ生命ヲ全フスル能ハサルニヨリ丙ヲ殺
スニ至レリ此レ固ト乙自己ノ意ニ非ラヌ
但夕甲ノ丙ヲ殺ス器械ニ供セラレタルヲ
以テ此ノ場合ニ望メハ乙ノ罪ヲ論スルヲ

得ヌ又數人ノ盜アリ甲ヲ捕ヘ汝チ隣人ノ
屋壁ヲ毀テ各ニ先シテ隣人ヲ縛ヌ可シ若
シ命ニ後ハサレ片ハ汝チノ家ニ放火セン
ト脅迫シタル片已ムヲ得ヌ隣人ノ屋壁ヲ
毀ツモ亦甲ノ罪ヲ論セサル者トス又兇徒
多衆ヲ嘯聚スルニ際シ良民ヲ脅迫シテ其
衆ニ入ラシメントスルニ若シ肯ンセサル
片ハ禍ニ遇フテ懼レ已ムヲ得ヌ隨行スル
者ノ如キモ又其罪ヲ論セサル者トス
本條強制ニ遇ヒ已ムヲ得ヌシテ為シタル
所為ハ固ト罪ニ非ス何故其罪ヲ論セスト
掲テタルヤト異議ヲ生スル者アリ固ヨリ
強制ニ遇ヒタル者ハ其心意ニ於テ毫モ罪

ト命ス可キ者ナシト雖モ其所為ニ至テハ
本刑法ニ於テハ人ヲ殺ス者ハ重罪人ノ屋
壁ヲ毀ツ者ハ輕罪等ト定メタルヲ以テ其
人ヲ殺シ人ノ屋壁ヲ毀テタル罪ハ強制ヲ
受ケシ者ノ意ニ非サルヲ以テ其罪ヲ論セ
スト定メタル所以ナリ

本條第二項モ亦第一項ト其意ヲ同シクス
ル者トス止タ其罪ヲ犯スニ至ル原因ノ異
ナルニヨリ項ヲ別テ掲ケタル者ナリ火災
地震洪水及ヒ航海中風濤ノ難ニ遇フ等ノ
キニ際シ其危難ヲ避ケントスルニ乘シ他
人ヲ殺傷シ又他人ノ物件ヲ毀壞滅盡スル
ニ至ルモ固ト此レ自己並ニ親屬ノ身軀ヲ

全フセントスル為メニ為シタル所為ナル
ヲ以テ其強制ヤ實ニ天災ニ在リ因テ亦其
罪ヲ論セサル者トス抑モ本項ノ所為タル
ヤ人間互ニ相保護シ相愛スルノ道ニ於テ
決シテ賞譽ス可ラサル所ノ者ナリ然リト
雖モ人此ノ間ノ危難ニ望メハ精神錯亂シ
實ニ道義ノ如何ヲ顧慮スルニ暇アラズ偶
然右等ノ所為ヲ為スニ係ルヲ以テ法律ニ
於テモ亦罪トシ刑スルニ忍ハサル者ナリ
第七十六條 本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ
以テ為シタル者ハ其罪ヲ論セス

本條ハ自己ノ職務ニ因リ本屬長官ノ命ヲ
奉シテ為シタルヲナルヲ以テ其所為ヤ此

刑法ニ於テハ重罪又ハ輕罪等トシ罰スル
トナリト雖モ又其所為ヲ罪トシ論セサル
者トス例ハ捕吏ノ罪人ヲ捕縛シ獄卒ノ
囚徒ヲ監禁絞殺シ及ヒ兇徒聚衆ノ時ニ際
シ兵卒ノ其長官ノ指揮ニ從ヒ人ヲ斃殺ス
ルノ類ナリ抑モ此等ノ事タル實ニ刑法上
非常中ノ亦非常ノ變例ニ係ル立法者ノ注
意茲ニ至テ盡セリト謂フ可シ
右ノ如ク解シ来レハ本條ハ殆ント無用ニ
屬スル者ノ如シ然リト雖モ若シ本條ヲ以
テ本屬長官ノ權内ニ在ラサル事ト雖モ其
長官ノ命令アリタルキハ所屬ノ官吏ニ於
テハ其命令ニ遵ハサルヲ得ストスレハ本

條ハ實ニ必要ニシテ一日モ無クシハアル
可カラサル所ノ者ナリ例ハ兵卒ニシテ
発砲ス可カラサル場所ニ於テ長上ノ命ニ
ヨリ發砲シ警察官吏ニシテ逮捕ス可カラ
サル者ヲ長官ノ命ニ因テ逮捕シ又司法卿
ニシテ死刑ニ處ス可カラサル犯人ヲ以テ
執行ヲ司トル官吏ニ命ニシテ死刑ニ處セシ
ムルノ類ノ如シ即チ其本屬長官ノ權内ニ
在ラサルトシテ又其命令アルキハ遵テ執
行セサルヲ得ストスルキハ其命ヲ受ケ執
行スル所ノ者ハ假令其長官ノ權内ニ在ラ
サルトシテ知ルモ亦其罪ヲ論ス可カラサル
者ナリ本條ノ骨子恐クハ此一點ニアルナ

ル可シ

第七十七條 罪ヲ犯ス意ナキノ所為ハ其罪ヲ
論セス但法律ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ
此限ニ在ラス
罪ト為ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者
ハ其罪ヲ論セス
罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其
重キニ從テ論スルヲ得ス
法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト
為スヲ得ス

本條第一項ハ刑法上罪ト為ル可キ所為ヲ
為スニ係ルト虽モ其所為タルヤ固ト其罪
ヲ犯スニ意ナキヲ以テ亦其罪ヲ論セサル

者トス例ハ取者舟人ノ誤テ舟車ヲ覆ヘ
シ火夫職工ノ家屋ヲ建築シ又ハ火器ヲ弄
スルニ因リ誤テ人ヲ殺傷シ又ハ他人ノ物
件ニ損害ヲ及ホスノ類ナリ然リト虽モ若
シ疎虞懈怠ニ因リ右ノ所為ヲ為スニ係ル
者ハ人ヲ殺傷シ又他人ノ物件ヲ損害シタ
ル正當ノ罪ヲ以テ論セスト虽モ其人ヲ殺
傷シタル者ハ第三百十七條以下ニ照シ疎
虞懈怠ニ因ノ人ヲ殺傷シタル罪ニ處シ又
人ノ家屋ヲ燒燬スルニ至ル者ハ失火ノ罪
ニ處セララル、者トス若シ又疎虞懈怠ナク
正當ノ事ヲ為スニ因リ右ノ罪ヲ犯スニ至
ル片ハ本項ニ因リ全ク其罪ヲ論セサル者

トス

本條第二項ハ例ハ人ノ妻タルヲ知ラス
シテ姦通シ又二十歳未満ノ幼者ヲ丁年者
ト誤認シテ誘拐シ又父母ノ家ニ於テ父母
ノ財産ト思ヒ他人ノ財産ヲ竊取シタル類
ニシテ初メヨリ其罪トナル可キ事實ヲ知
ラサルヲ以テ亦其罪ヲ論セサル者トス
本條第三項ハ例ハ官吏ノ職務ヲ行フヲ
妨害スルニ該リ官吏タルヲ知ラスシテ毆
打創傷シ又子孫タル者ノ其祖父母父母タ
ルヲ知ラスシテ毆打創傷スルノ類ノ如シ
此等ノ罪ハ本ト凡人ニ對シテ行クタルヨ
リ一等又ハ二等ヲ加ハテ科斷ス可キ者ト

雖モ其犯ス片官吏並ニ祖父母父母タルヲ
知ラサルヲ以テ重キニ從テ論スルト得
ス通常ノ刑ニ處スル者トス
本條第四項ハ既ニ頒布シテ禁シタルトハ
其頒布シタル法律規則ヲ知ラスシテ犯シ
タルニ係ルモ其犯シタル者ヲ犯スノ意ナ
シト為スト得スト其制限ヲ示シタル者
ナリ即チ既ニ頒布シテ禁シタルトハ假令
本犯其法ヲ知ラスト雖モ其罪ヲ免カル、
ト得サル者トス頒布シタル法ヲ知ラサ
ル者ハ知ラサル者ノ過今ニシテ且罪ト為
ル可キノ所為ニ犯人自己ノ道義心ヲ損シ
世間ニ害ヲ遺ス者ナルヲ以テ犯人自己ノ

良心ニ問ヘハ其法アルヲ知ラスト雖モ亦其罪ヲ免カルハヲ得サル者ナリ

第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因

テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス

本條ハ罪ヲ犯スハ其精神ヲ喪失シタル者

ヲ待ツ為メニ設ク故ニ從前喪心ノ病アル

モ犯スハ其病治リタル者ハ亦本條ノ恩典

ヲ得サル者トス知覺精神ヲ喪失シ是非善

惡ヲ辨別セサル者ハ罪ヲ犯スノ意ナキ者

ナリ罪ヲ犯スノ意ナキ者ノ所為ハ其所為

ヲ罪トシテ論スルヲ得サルノミナラス知

覺精神ヲ喪失シタル者ハ例ハハ瘋癲人ノ

如シ自己ノ身体ヲ傷フモ更ニ患フル心ナ

キニヨリ其者ヲ刑スルモ更ニ其効ナキヲ

以テ亦其罪ヲ論セサル者トス

白痴者及ヒ酒狂ニ采シ罪ヲ犯ス者モ本條

ニ含有スト論スル者アリト雖モ白痴酒狂

人等ハ其白痴酒狂ノ度ニ於テ大ニ輕重ア

ル者ナルヲ以テ一概本條ニ含有スト為ス

可カラス右等ノ者ノ罪ヲ犯スニ方ル片ハ

判官實際ニ望ミ真ニ知覺精神ノ喪失ニ至

リヤ否ヤヲ分別シテ處分スルヲ要

スル者トス

第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ

其罪ヲ論セス但滿八歳以上ノ者ハ情状ニ因

リ滿十六歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留

刑部省 法律局

置スルヲ得

本條以下幼者ノ罪ヲ處分スルノ法トス抑
モ幼者ハ丁年者ニ比スレハ其思慮少ナク
且ツ極幼ノ者ハ全ク其思慮ナキヲ以テ本
刑法幼者ノ罪ヲ處分スルノ法第三段ニ區
別セリ第一、十二歳未滿ノ者第二、十二歳以
上十六歳未滿ノ者第三、十六歳以上二十歳
未滿ノ者トス此等ノ幼者ハ其犯ス所ノ所
為ノ罪ト為ルヤ否ヲ知ラス又稍々其不良
ノ所為タルヲ知ルト雖モ未タ丁年以上ノ
者ノ如ク是非善惡ヲ辨知セサルヲ以テ丁
年以上ノ者ト等シク處分スルヲ得ス因テ
其罪ヲ論セス又其罪ヲ減輕ス可キ者トス

各國刑法皆如此唯其國固有ノ慣習ニヨリ
稍々其年限ニ異同アルノミ本邦舊來ノ法
ハ七歳以下其罪ヲ論セス七歳以上十歳以
下死罪ニ該ル者ハ議擬奏聞シテ上裁ヲ請
ヒ盜罪及ヒ人ヲ傷スル者ハ其罪ヲ收贖シ
其餘ノ罪ハ皆論スルヲ得ス十歳以上十五
歳以下死罪ヲ除クノ外皆收贖ヲ許シ其十
六歳以上ニ係ル者ハ普通ノ法ニ從フ者ナ
リシ本刑法ニ於テハ十二歳未滿ノ幼者ハ
皆其罪ヲ論セス十二歳以上十六歳未滿ノ
者ハ其是非ヲ辨別スルト否ヲサルトニ因
リ不論罪及ヒ減等ニ處シ十六歳以上二十
歳未滿ノ者ハ是非ヲ辨別シタルト否トニ

拘ハラス一昧ニ丁年者ニ一等ヲ減スト定
ノタリ實ニ能ク幼者ノ心意ヲ酌量シタル
者ト謂フ可シ

本條ハ即チ右ニ掲クル十二歳未満ノ幼者
ノ犯罪ニ係ルヲ以テ其罪ヲ論セサル者ト
ス然リト雖モ人幼少ヨリ早ク知慮ノ發達
スル者アリ又其父母親屬タル者ノ其教育
ヲ全フスル能ハサル者アルトニヨリハ歳
以上ニ至ル者ハ犯者ノ情状ヲ量リ獄場中
別ニ設ケタル所ノ懲治場ニ留置シ其後來
ヲ監護教育セシムル者トス然ルニ又其懲
治場中ニ在ルノ長キニ過ル代ハ世人ニ交
接スルノ道断ルヲ以テ翻テ其幼者ヲ教育

スルノ道ニ背クニ至ル因テ十六歳ニ過キ
サル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得ト
定メタル所以ナリ

第八十條 罪ヲ犯ス時満十二歳以上十六歳ニ

満サル者ハ其所為是非ヲ辨別シタルト否ト
ヲ審案シ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ
論セス但情状ニ因リ満二十歳ニ過キサル時
間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得
若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シ
テ本刑ニ二等ヲ減ス
本條ハ十二歳以上十六歳未満ノ幼者ノ犯
罪ヲ處分スル法ニ係ル前條ニ比スレハ其
年齢稍々長シタルヲ以テ不良ノ事タルヲ

辨別シテ犯ス者アリ又其辨別ナクシテ犯
ス者アリ故ニ本條ニ記載シタル幼者ノ罪
ヲ犯ス片ハ先ツ其所為ノ是非ヲ辨別シテ
為シタルカ若シ又否ラスシテ為シタルカ
ヲ判断セサルヲ得ス若シ辨別ナクシテ犯
シタルニ係ル片ハ前條ト等シク其罪ヲ論
セス唯前條ノ幼者ニ四年ヲ長シタルヲ以
テ二十歳ニ至ルノ時間懲治場ニ留置スル
コトヲ得ル者トス
若シ又辨別アリテ犯スニ係ル者ト雖モ丁
年者ニ比スレハ自カラ其思慮少ナキヲ以
テ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減シ處斷
スル者トス

第八十一條

罪ヲ犯ス時満十六歳以上二十歳
ニ満サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ
減ス

本條ニ記載シタル幼者ハ丁年者ニ僅カニ
一段ヲ讓ル所ノ年次ニ係ル者ナルヲ以テ
其思慮又殆ント丁年者ニ近キ者ナリ故ニ
是ノ幼者ハ事ノ是非善悪ハ既ニ辨別シタ
ル者ト見做シ其是非ヲ辨別シテ為シタル
ヤ否ヲ判断スルヲ待タス唯丁年以上ノ者
ニ一等ヲ減輕シテ處斷スル者トス

第八十二條

瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ
論セス但情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之
ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

盲者ハ其眼ナシト雖モ世間ノ道理ハ能ク
聞知スル者ナリ啞者ニ至テハ唯眼ヲ以テ
世間ノ事物ヲ見ルノミニシテ其是非善惡
ノ道理ニ於テハ生來曾テ聞シコナキヲ以
テ其思想殆ント十二歳以下ノ幼者ニ同シ
因テ亦其罪ヲ論セス唯五年ニ過キサル時
間懲治場ニ留置スルコトヲ得ル者トス
曾テ聞シ西洋諸國ニ於テハ啞院ヲ設ケ能
ク其教育ヲ盡シ啞者能ク筆談ヲ為シ世間
ノ交際殆ント常人ニ異ナラサル者アリト
若シ本邦他日啞院ヲ設置シ右ノ如ク啞者
ノ教育ヲ得ルニ至ルハ本條ハ改正ヲ加
ヘサルヲ得スト雖モ現今ニ於テハ啞者ノ

刑罰草案

思想殆ント幼者ト同シキヲ以テ本條ノ如
キハ大ニ時情ニ適中スル者トス且多クノ
啞者中ニ於テハ間々是非ヲ辨別スル者ア
リト雖モ亦其言語ヲ為スト能ハサルヲ以
テ常人ニ比スレハ大ニ憫諒ヲ加フ可キ者
ナリ

第八十三條 違警罪ハ滿十六歳以上二十歳ニ
滿サル者ト雖モ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得ス
滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥
恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス十二歳ニ滿サル者
及ヒ瘖啞者ハ其罪ヲ論セス
違警罪ハ其本條ヲ見レハ各種ノ規則ニ違
背スル者ヲ罰スル法ニ係ル故ニ犯人ノ故

刑罰草案

意過誤ヲ問ハズ止メ此規則ニ違背スル者ハ此ノ規則ヲ保護スル為メ其刑ヲ加フル者トス且此ノ刑ハ至テ輕キ者ナルヲ以テ十六歳以上二十歳未満ノ者モ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得ハ唯其十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其思慮未タ全カラサルノ故ヲ以テ本刑ニ一等ヲ減シ十二歳ニ滿サル者及ヒ瘖啞者ハ前數條ノ例ニ從ヒ其罪ヲ論セサル者トス

第八十四條 此節ニ記載スルノ外特別ノ不論罪有恕減輕ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス本節ニ記載シタル者ハ一般ノ事ニ關スル不論罪并ニ宥恕減輕ノ法トス此一般ノ犯

罪ノ外特別ノ不論罪及ヒ宥恕減輕トハ本刑法第三編第三節ニ記載シタル人ヲ殺傷シタル罪ヲ宥恕シ又其罪ヲ論セサル等ノコトヲ謂フ即チ此等ノ人ヲ殺傷シタル罪ノミヲ處分スル特別ノ不論罪并ニ宥恕減輕ハ各其本條ニ記載セリト本條ヲ以テ持ニ此ノ特別法ノアルコトヲ示シタル者ナリ

第二節 自首減輕

第八十五條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラズ

舊刑法罪ヲ犯シ自首ヲ為ス者ヲ減免スル

ハ其能ク過テ改メ来テ其罪ヲ首スル自
新ノ意ヲ賞スルヲ以テ其主意トス然ルニ
其罪タルヤ人ニ加ヘタル害ヲ舊ニ復セシ
ムル者ニ非サレハ假令其過ヲ改ムルモ亦
減免スルヲ得サルニヨリ實際自首ニ因テ
減免ヲ得ル者ハ唯數種ノ罪ニ限ル者トス
本刑法自首減輕ノ法ヲ設ケタルハ本犯悔
悟自新ノ意ヲ賞スルノミナラス自カラ其
罪ヲ首出スルキハ第一政府ニ於テ犯人并
ニ其共犯ヲ探索捕獲スルノ手數ヲ省キ第
二自首スルヲ以テ其真犯ヲ獲ルカ為メ冤
罪ヲ他人ニ及ホスノ害ヲ除ク第三其真犯
ヲ獲ルヲ以テ世人ヲシテ安心セシムル等

ノ理由アルニ因テ其人ニ加ヘタル害ヲ舊
ニ復スルヲ得サル者モ仍ホ其自首ヲ以テ
減等ヲ與フルニ定メタリ故ニ自首ニ因
テ減等ヲ得ル者舊法ニ比スレバ大ニ其數
ヲ増ス者トス然ルニ右ノ如ク總テノ犯罪
ニ對シ全ク其罪ヲ免スルキハ終ニ罪ヲ犯
シ刑ヲ受クル者ナキニ至ルヲ以テ其財產
ニ對シタル罪ヲ犯ス者ヲ除クノ外止夕僅
カニ一等ヲ減スル者トス然ルニ鬪毆其他
ノ事ニ因リ人ヲ殺シタル者ハ本心ヨリ悔
悟スルキハ此等ノ罪ハ固ト人ヲ殺スノ意
ナクシテ殺スニ至ル者ナルヲ以テ本條ニ
依リ減等ヲ與フルヲ得ルト雖モ止夕謀殺

刑法典 卷之五 刑罰 第一章 自首

刑法典 卷之五 刑罰 第一章 自首

故殺ノ二罪ハ多クハ怨恨ヲ懷キ人ヲ殺ス
ニ係ル者ニシテ即チ今日其敵手ヲ殺シ明
日自首スル等ノ弊ヲ生スルニ因リ斯ノ犯
罪ニ自首ヲ以テ減等ヲ與フルキハ之ニ由
テ反テ世間ノ害ヲ起スニ至ルヲ以テ此二
罪ハ自首減等ノ得サル者トス
本條未タ発覚セサル前ニ於テ自首シタル
者トハ其犯罪ノ證據未タ発セス又ハ告訴
告発アラサル前ニ於テ官ニ首出スル者ヲ
謂フ若シ犯罪ノ證據既ニ発シ又ハ告訴告
発アリタル時ハ本犯ノ自首スルヲ待タズ
直チニ其犯人ヲ捕獲スルヲ得又其罪発覚
シタル後チ首出スル者ハ真ニ罪ヲ悔ルニ

非ス其捕獲ヲ畏レ已ムヲ得ス首出スルニ
係ルヲ以テ減等ヲ與ヘサル者トス
第八十六條 財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自
首シテ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時
ハ自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全
部ヲ還償セスト雖モ半数以上ヲ還償シタル
時ハ一等ヲ減ス

本條ノ罪ハ被害者ノ損害ヲ償ヒ舊ニ復ス
ルヲ得ル罪ナルヲ以テ若シ其罪ヲ首シテ
贓物ヲ返還シ損害ヲ賠償シタルハ被害
者一人ニ對シテハ既ニ其害ヲ除キタル者
トス因テ前条ニ照シ一等ヲ減スルノ外其
贓物并ニ損害ノ全部ヲ還償シタルハ仍

ホ二等ヲ減シ前条自首減等ニ通シテ三等
ヲ減スル者トス然ルニ其贓物損害ノ全部
ヲ還償スルヲ得ス但半額以上ヲ還償シタ
ル者ハ一等ヲ減シ前条自首減等ニ通シテ
二等ヲ減スル者トス故ニ其還償半額ニ及
ハサル者ハ自首減等ノ外減輕ヲ得サル者
トス
強盜人ヲ殺傷シタル者ハ本條ニ因ルコトヲ
得ス何トナレハ故毆殺ノ罪ヨリ輕クナレ
音ハナリ且又未遂犯罪ノ時ニ際シテモ殺傷
ハト盜罪トハ別ツテ得サレハナリ
第八十七條 財産ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ
首服シタル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條

ホ例ニ照シテ處断ス
本条モ亦前条ノ罪ニ同シ但其官ニ自首ス
ルヲ得スト雖モ被害者ニ首服シタル者ハ
其悔悟ノ心官ニ自首スルト同シキヲ以テ
贓物ヲ返還シ損害ヲ賠償シタル額ノ多少
ニ從ヒ前条ト等シク二等又ハ三等ヲ減シ
テ處分スル者トス
第八十八條 此節ニ記載スルノ外本条別ニ自
首ノ例ヲ掲ケタル者ハ各其本条ニ從フ
本条ハ内訌ノ豫備ヲ為シ未タ其事ヲ奉ケ
サル前自首シタル者及ヒ貨幣ヲ偽造變造
シテ未タ行使セサル前自首シタル者又ハ
偽證ヲ為スモ其事件ノ裁判宣告ニ至ラサ

刑部省
法律部
審判局

ル前ニ於テ自首シ及ヒ誣告ヲ為シタル者
未タ被告人ノ推問ヲ初メサル前ニ自首ス
ル等ノ了ヲ謂フ此等ノ犯罪ハ其自首ニ因
テ特ニ一時ヲ寧濟シ又ハ大害ノ未タ生セ
サル前ニ於テ之ヲ防過シ且ツ一旦人ニ害
ヲ加ヘントシタルモ其害ノ生セサル前ニ
於テ之ヲ消除スルニ至ルヲ以テ本節ニ記
載シタル減等ノ法ヲ用ヒス其主刑ヲ全免
スル者トス故ニ是等ノ特別免罪ニ處ス可
キ者ハ夫々其本条ニ記載スルヲ以テ各其
本条ニ從テ處分ス可キ者トス

第三節 酌量減輕
第八十九條 重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情

狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スル
了ヲ得

法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者
ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スル
了ヲ得

本刑法ハ重罪輕罪違警罪ヲ分タス其刑期
ニ長期短期罰金ニ多數寡數ノ間アル編成
ニ係ルヲ以テ犯情ノ輕重ニ從ヒ夫々適當
ノ刑ニ處スルヲ得可シト雖モ然ルニ犯情
ノ千差萬別別ナル犯人身分ノ人毎ニ各相
同シカラサル假令本刑ノ最短期最寡數ニ
處スルモ仍ホ其刑ノ酷ナルヲ免カレサル
場合アリ因テ本條ヲ設置シ其最モ情狀ノ

原諒ス可キ者一處分スル者トス故ニ通常ノ刑ニ處ス可キ者ヲ減輕スルノミナラス各本條ニ於テ其刑ヲ加重シ又ハ減輕スル者モ原諒ス可キ情狀アルハ其加重又ハ減輕アリシニ拘ハラス仍ホ本條ニ依リ減輕スルヲ得可キ者トス

第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

本條酌量減輕ヲ僅カニ一等又ハ二等ニ止メタリ舊法ニ比スレハ其減等寡ナシト雖モ本刑法ハ舊法ノ如ク刑名ノ等級多カラズ輕罪ニ至テハ四等ヲ減スルハ每減盡スルニ至ル者ナリ亦前ニ解明シタル如ク

其刑期金額ニ長期短期多數寡數ノ間アル法ナルヲ以テ減輕シテ其短期寡數ニ處スルハ其減輕寡シト謂フヲ得ス且ツ人情多クハ犯人ヲ憐ミ減等スルヲ好ム者ナルニ因リ實際上ニ於テハ減等ヲ過シ刑ノ効ヲ減却スルニ至ルヲ多キヲ以テ本條酌量減輕ヲ二等ニ止メタル所以ナリ

第五章 再犯加重

第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタ

ル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

罪ヲ犯シ既ニ處断ヲ經ルノ後再ニ罪ヲ犯

ス者ハ再犯ト為シ其本刑ニ加等シテ處分

スルノ法及ヒ未タ判決ヲ經サルニ罪以上

俱ニ發シタル片ハ重キ一罪ニ從テ處断ス

ルノ法ハ同シク二罪ヲ犯ス者ニシテ一ハ

再犯トシテ加等シ一ハ重キ一罪ニ從テ餘

罪ヲ論セサルヲ以テ其權衡合ハス自カラ

犯罪ヲ處分スル公平ノ主意ニ矛盾スル者

ナリ且ツ再犯加等ノ一法并ニ數罪俱發ノ
一法ニ於テモ夫々權衡ヲ正シクシテ處分
セントスレハ論理上ニ於テ甚タ不通ノ事
ヲ生スルニヨリ寧ロ再犯ハ其刑ヲ加等セ
サルコトニ定メテ如何ト喋々論スル者アリ
然ルニ各國刑法再犯ヲ加等セサル者甚タ
稀ナリ又數罪ヲ盡ク科スル者ナシ右ハ大
ニ再犯ハ加等セサルヲ得ス又數罪ハ併科
ス可カラサル理由ノ在ル有ルヲ以テノ故
ナリ即チ既ニ一罪ヲ犯シ其處断ヲ經仍ホ
其惡心ヲ改メスシテ再ヒ罪ヲ犯スニヨリ
其刑ヲ加重シテ處断スルニ非サレハ其罪
ヲ懲ラスニ足ラス因テ加等スル者トス是

レ各國刑法ニ於テ多ク再犯ヲ加等スル
理由トス本刑法ニ於テモ論者久説ニ從ハ
スシテ再犯ヲ加等スルハ此意ニ外ナラザ
ル可シ數罪俱發ノ了ニ至テハ其本章ニ就
キ解明セントス

本二條ハ右ノ理由ナルヲ以テ先ニ輕罪ノ
刑ニ處セラレシ者再ヒ重罪ヲ犯ス片ハ其
刑ヲ加等ヤス先ノ輕罪ノ刑輕クシテ再犯
ノ重罪ヲ懲ラスニ足ラサル者ト見做セハ
ナリ故ニ先ニ重罪ヲ犯シ再ヒ重罪ヲ犯シ
タル時又ハ先ニ重罪輕罪ヲ犯シ再ヒ輕罪
ヲ犯シタル時ニ非サレハ其刑ヲ加等マサ
ル者ト不然ルニ無期徒刑ニ談ル者ハ第

六十六條ニ因レハ加ヘテ死ニ入ルコトヲ
得サルヲ以テ獄則ニ從テ別ニ懲戒ノ處分
ヲ為スニ非サレハ加等スルコトヲ得サル者
トス

第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル
者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ
但一年内再々其違警罪裁判所ノ管轄内ニ於
テ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スル
コトヲ得ス

違警罪ハ重罪輕罪ト其性質ヲ異ニシタル
者ニシテ但多ク各種ノ規則ニ違背スル者
ヲ罰スル刑ニ係ル故ニ前条ト其例ヲ異ニ
シテ處分スル者トス即チ初犯ノ重罪輕罪

ニ其性質ヲ異ニシタルニヨリ初犯ノ刑ニ懲
罰スルコトヲ再々此罪ヲ犯シタルト謂フヲ得
ス何ナレハ違警罪ハ人家稠密ノ場所ニ
於テ火器ヲ玩ヒタル者家屋牆壁ノ修理ヲ
怠リタル者路上ニ於テ獸類ヲ驚逸セシメ
タル者等ノ罪ニシテ全ク重罪輕罪ト其關
係ヲ有セサル者ナレハナリ故ニ初犯重輕
罪ニ係ル者再犯違警罪ニ該ルキハ其刑ヲ
加等セズ止テ初犯違警罪ニシテ再犯又違
警罪ニ該ル時初メテ其刑ヲ加等スル者ト
ス然ルニ此違警罪ハ右ニ掲クル如ク專ラ
各種ノ規則ヲ違背スル者ヲ罰スル法ニシ
テ其犯人ノ故意過誤ヲ別タサルヲ以テ此

刑ヲ受クル者ハ甚ク多クアル可キ者ト
ス將又此罪ハ一縣内ニ在テ甲區ニ於テハ
罪トセスシテ乙區ニ於テ罪ト為ルコアル
ニヨリ甲區ノ犯人乙區ニ於テ罪トナルヲ
知ラス犯ス者アリ又重罪輕罪ハ各所ノ裁
判所ニ記録シ置クヲ以テ其再犯タルヲ知
ルコ易シト雖モ違警罪ニ至テハ夫々其再
犯タルヲ知ルコ難シ故ニ此罪ハ一年內再
ヒ其違警罪裁判所ノ管轄内ニ於テ犯シタ
ル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコヲ得
ス十定メタル者ナリ
第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後
ニ非サレハ之ヲ論スルコヲ得ス

本條ハ再犯トシテ加重スル所ノ原則ヲ揭
ケタル者ナリ再犯トシテ加重ス可キ者ハ
初犯ノ罪ノ確定シタル後ニ非サレハ其加
等ス可キ理由ノ生セサルヲ以テナリ故ニ
上訴中並ニ開席裁判ニ係ル者ハ再ヒ罪ヲ
犯スト雖モ再犯ト為シテ加重スルコヲ得サ
ル者トス

第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑
ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者
ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初
犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共
ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ
者ヲ執行ス

罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラス各之ヲ
徴收ス

前犯ノ刑期限内ニ在テ再ヒ罪ヲ犯スルハ
前後ニ罪ノ中何レヲ先ニ執行ス可キヤ其
順序ヲ定メサルヲ得ス本條ハ其順序ヲ定
メタル者ナリ其順序タルヤ定役アル刑ヲ
先ニシテ定役ナキ刑ヲ後ニシ又重キ刑ヲ
先ニシテ輕キ刑ヲ後ニスルト甚ク道理ニ
適ラ者トス故ニ定役ニ服ス可キ者即チ懲
役若クハ重禁錮ノ刑期中定役ニ服セサル
者即チ禁獄若クハ輕禁錮ノ刑ニ該ル罪ヲ
犯シタルハ先ツ定役ニ服ス可キ者ヲ執
行シ之ニ反シテ定役ニ服セサル刑ノ期限

中定役ニ服ス可キ罪ヲ犯シタル時モ亦其
定役ニ服ス可キ者ヲ先ニ執行スル者トス
又初犯再犯共ニ定役ニ服ス可キ刑即チ懲
役若クハ重禁錮ノ刑ニ該ルハ懲役ヲ重
禁錮ヨリ先ニ執行シ又初犯再犯共ニ定役
ニ服セサル刑即チ禁獄若クハ輕禁錮ニ該
ル時ハ禁獄ヲ輕禁錮ヨリ先ニ執行スト定
メタル者ナリ

罰金科料ハ右ノ如ク順序ヲ立テ徴收スル
ニ及ハサル刑ナルヲ以テ各之ヲ徴收スル
者トス然ルニ本刑法第二十七條及ヒ第三
十條ニ從ヘハ罰金ハ一月内ニ納完セシム
ル者ニシテ科料ハ十日内ニ納完セシムル

者ト定メタリ故ニ其犯人右ノ期限内ニ納
完スルヲ能ハサルキハ直チニ禁錮拘留ニ
換テ處斷セラル、ヲ以テ犯人其罰金科料
ノ内十日ノ末ニ至リ先ツ二圓金ヲ納メタ
ルキハ自然ニ科料ヲ先ニ徵收シタル者ト
見做サ、ルヲ得ス否ラスシテ右ノ二圓ヲ
罰金ト見做スキハ直チニ拘留ヲ受ケサル
ヲ得サルノ不幸アレハナリ

第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タ
ル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ罪
常律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ
以テ論スルヲ得ス
本條ハ初犯ノ罪陸海軍律ニ依テ處斷ヲ經

タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ其刑ヲ加等
セサルヲ云フ抑モ軍律ハ專ラ軍人ヲシテ
其長上ヲ畏敬セシメ又軍規ヲ整肅ナラ
シムル為ノ常律ノ外特別ニ設ケタル者ニ
シテ其罪タルヤ反乱、抗命、擅權、辱職、暴行、侮
辱、違令、逃亡及ヒ糧食ヲ偽造スル等ノ數種
ノ罪ニ過キス故ニ多ク常人ノ犯ス可カラ
サル罪ニシテ例ハ猶ホ官吏ニ懲戒令ア
ル如ク軍人ニ在ラサレハ又多ク此刑ヲ科
ス可カラサル者ナリ故ニ先ニ軍律ニ依テ
處斷ヲ經シ者ハ再ヒ常律ニ記載スル罪ヲ
犯スモ右ニ掲ケル如ク軍律ニ記載スル罪
ハ常律ノ罪ト全ク其性質ヲ異ニスルヲ以

テ初犯ノ刑ヲ以テ再犯ノ罪ヲ懲戒スルニ足ラス因テ其刑ヲ加等セサル者トス

第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再

ニ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

大赦ハ第六十四條ニ於テ解明シタル如ク

固ト一種ノ犯罪ニ對シ刑名宣告ノ前後ヲ

論セス告訴ノ權逮捕ノ權刑罰執行ノ權等

悉ク之ヲ消滅セシムル者ニシテ世間ニ於

テ罪ヲ犯シタリト見做サ、ル所ノ者ナリ

故ニ大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ニ罪

ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論シ加等スルヲ

得サル者トス

第九十八條 三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法

ハ再犯ノ例ニ同シ

再犯ニ一等ヲ加ヘ處断スルハ三犯四犯

ニ至レハ又各一等ヲ累加シテ處断セサル

ヲ得ス若シ否ラヤルハ頗ル論理上ニ於

テ不公平ナル者トス然ルニ如此罪ヲ犯ス

毎ニ等ヲ加ヘテ處断スル丁ニ定ムルハ

幾等ヲ加ヘテ止メントスル乎其加等ニ際

限ナキ時ハ實際上ニ於テ大ニ煩雜ヲ生ス

ルニ至ラン然ルノミナラス輕キ刑ハ三等

又ハ四等ヲ加フルヲ得ルモ重キ刑ニ至テ

ハ多ク加等スルヲ得サルヲ以テ其權衡ヲ

得ス且ツ其犯罪三犯四犯ニ及フモ其犯シ

タル罪固ト微罪ナルハ夫々數等ヲ加ヘ
テ重クスルハ罪ト刑ト適當セサルヲ以
テ又大ニ苛酷ニ過ルノ弊アリ將又各國刑
法ニ於テハ魯西亞國刑法ヲ除クノ外再犯
以上其刑ヲ累加シタル者ナキニ因リ本條
ニ設ケ三犯以上ハ別ニ加等ノ法ヲ用ヒス
但々再犯加重ノ例ニ從テ處断ス可ト定
メタル所以ナリ

第六章 加減順序

第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同
時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ
從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ハ減
等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ニ

其加減シタル者ヲ以テ本刑ト為ス

一 再犯加重

二 宥恕減輕

三 自首減輕

四 酌量減輕

一ノ罪ヲ犯シ其判決ヲ為スニ臨ミ同時ニ
加重減輕ス可キ場合甚々多シ即チ其犯人
再犯ニ係ルキハ加等セサルヲ得ス若シ又
二十歳以下ニシテ且ツ自首スルキハ宥恕
減輕ノ恩典并ニ自首減輕ノ恩典ヲ與ヘサ
ルヲ得ス若シ又其上ニ仍ホ酌量減輕ス可
キ情狀アルハ又其減輕ヲ與ヘサルヲ得
サル者ナリ本條ハ其加重減輕ヲ為ス可キ

順序ヲ示シタル者トス若シ此順序ヲ定メ
サルキハ或ハ減輕ヲ先ニシテ加重ヲ後ニ
シ又或ハ加重ヲ先ニシテ減輕ヲ後ニスル
等ノコアリテ判官ノ異ナル毎ニ夫々其加
重減輕ノ順序ヲ異ニシ裁判ノ規律ヲシテ
錯亂セシムルノミナラス加重減輕ノ順序
ヲ前後スルキハ同一ノ犯罪ニ對シ大キニ
不推衡ノ刑ヲ宣告スルニ至ル者ナリ然ル
ニ此ノ加重ヲ先ニシ減輕ヲ後ニスル法モ
亦頗ル公平ノ處分トモ見做シ難シト雖モ
判官ノ異ナル毎ニ加重ノ順序ヲ前後スル
ノ更ニ不推衡ヲ生スルニ比スレハ大ニ公
平ノ處分ヲ得ルヲ以テ加重ヲ先ニシ減輕

ヲ後ニスルコトニ定メタル者ナリ今茲ニ加
重ヲ先ニシテ減輕ヲ後ニシ又減輕ヲ先ニ
シテ加重ヲ後ニスル數例ヲ掲ケ其犯人ニ
損益アルコトヲ示サントス
本條特別ノ加重トハ官吏ノ職務ヲ行フヲ
妨害スルニ該リ其官吏ヲ毆傷シタルキハ
凡人ヲ毆傷シタル刑ニ一等ヲ加ヘ子孫祖
父母父母ノ身体ニ對シタル罪ハ凡人ニ二
等ヲ加ヘテ處断スルノ類ヲ云フ又特別ノ
減輕トハ内亂ノ豫備ヲ為シ未タ事ヲ舉ケ
サル者ハ現ニ内亂ヲ起シタル者ニ一等ヲ
減シ貨幣ヲ偽造シテ未タ行使セサル者ハ
既ニ行使シタル者ニ一等ヲ減スルノ類ニ

シテ一般ノ罪ニ關係ナキ各本條ニ於テ特
ニ加重減輕スル者ヲ云フ
又本條輕罪ノ減輕ハ人或ハ一度一等ヲ減
輕スルハ本刑ノ四分ノ一ヲ減スルヲ更ニ
論スルヲ要セス若シ再々減等スルハ其
既ニ一度減等シタル刑ヲ再々四分ノ一ニ
區別シ減スルヤ如何ト疑ヲ起ス者アル可
シト雖モ決シテ如此一度減等シタル上ニ
再々其減等シタル刑ニ四分ノ一ニ區別シ
テ減輕スル者ニ非ラス第七十條ニ記載シ
タル如ク但各本條ニ記載シタル刑ヲ四等
ニ別テ減輕スルノミ
第一例 犯人加重益アル例シテ

再犯無期徒刑ニ該ル者加重ヲ先ニスレハ
無期徒刑ニ該ル者ハ加ヘテ死ニ入ルルコ
ヲ得サルヲ以テ加等スルコヲ得ス然ルニ
本犯二十歳未滿ノ幼者ニ係ルハ一等ヲ
減セサルヲ得ス若シ又自首ヲ為スハ前
ニ通シテ二等ヲ減セサルヲ得ス然ルハ
降テ重懲役ノ刑トナル之ニ又シテ減輕ヲ
先ニスルハ前ノ如ク減シテ重懲役ニ降
ル可キ者モ後ニ加等スルヲ得ルヲ以テ一
等ヲ加ヘ有期徒刑ニ處セサルヲ得ス故ニ
再犯無期徒刑ニ該ル者ハ加等ヲ先ニスル
ハ犯人ノ益トナル者トス
第二例 犯人加重損トナル例シテ

有期重罪ノ刑ニ該ル者ハ一等又ハ二等ヲ
 減スルキハ加重ヲ先ニスルモ又減輕ヲ先
 ニスルモ互ニ損益ナシト雖モ若シ減シテ
 輕罪ノ刑ニ降ル者ハ輕罪ノ刑ハ加ヘテ重
 罪ニ入ル、コヲ得サルヲ以テ加重ヲ先ニ
 スルキハ犯人ノ損トナル即チ重懲役ニ諷
 ル者先ツ一等ヲ加フレハ有期徒刑ト為ル
 ヲ以テ其犯人ヲ宥恕シテ二等ヲ減スルモ
 輕懲役ニ止ル者トス若シ減輕ヲ先ニスル
 キハ二等ヲ減スレハ輕罪ニ降ルヲ以テ後
 ニ加重スルモ重罪ニ入ル、コヲ得サル者
 トス加重ヲ先ニシテ犯人ノ損トナル場合
 即チ是ナリ

第三例

犯即チ加重アル先ニシテ
犯即チ加重アル先ニシテ

本刑五年以下ノ輕罪ニ該ル者ハ三等減迄
 ハ加重ヲ先ニスルモ又減輕ヲ先ニスルモ
 互ニ損益ナシト雖モ減シテ違警罪ニ降ル
 者ハ違警罪ノ刑ハ加ヘテ十二日ニ至ルヲ
 得ルヲ以テ加重ヲ先ニスルキハ犯人ノ益
 トス何トナレハ輕罪ヲ減盡シテ違警罪ニ
 降スキハ十日以下ノ拘留ニ處スル者ナリ
 ト雖モ若シ先ニ減シテ違警罪ニ降ル者ハ
 後ニ一等ヲ加フルキハ十二日ニ至ル迄加
 重スルコヲ得レハナリ

第四例

犯即チ加重アル先ニシテ
犯即チ加重アル先ニシテ

特別ノ加重ヲ以テ五年以下ノ刑ニ一等ヲ

加へ六年三月以下ノ重禁錮ニ該ル者若シ
再犯ナルキハ又一等ヲ加重セサルヲ得ス
此時ニ際シ加重ヲ先ニシ減輕ヲ後ニスル
時ハ(六年三月ノ四分ノ一ハ一年六月二十
二日餘ナルヲ以テ先ツ加へテ七年九月二
十二日以下ノ刑トナルト見做サ、ルヲ得
ス然ルニ輕罪ノ刑ハ加へテ七年ニ過ルコ
ヲ得サルヲ以テ若シ此犯人ヲ減輕スルキ
ハ七年以下ヲ四等ニ別テ減輕セサルヲ得
ス故ニ此犯人一等ヲ減輕スルキハ(七年ノ
四分ノ一ハ一年九月ト為ルヲ以テ)五年三
月以下ノ重禁錮ニ處ス可キ者トス之ニ反
シテ本刑六年三月以下タルヲ以テ減輕ヲ

刑罰法 第... 卷...

先ニスルキハ先ヅ一等ヲ減スルハ(前ニ視
シタル如ク六年三月ノ四分ノ一ハ一年六
月二十二日餘トナルヲ以テ)四年八月七日
以下ノ刑トナル若シ之ニ一等ヲ加フルキ
ハ本刑ト同シク六年三月以下ノ刑トナル
ヲ以テ此場合ニ臨メハ又加重ヲ先ニスル
ヲ犯人ノ益トス
例ヲ掲ケルハ如此結果又生スルヲ以テ判
官ノ異ナル毎ニ加重減輕ヲ前後スルキハ
同シ身分ノ者ニシテ同シ罪ヲ犯スルキモ第
一例ニ就テ謂ヘハ甲ノ判決ハ加重ヲ先ニ
スルヲ以テ犯人ノ益トナリ乙ノ判決ハ減
輕ヲ先ニスルヲ以テ犯人ノ損トナリ又第

刑罰法 第... 卷...

二例ニ就テ謂ヘハ甲ノ判決ハ減輕ヲ先ニ
スルヲ以テ犯人ノ益トナリ乙ノ判決ハ加
重ヲ先ニスルヲ以テ犯人ノ損トナル等ノ
不權衡ヲ生スルニヨリ總テノ犯人ニ對シ
テハ加重ヲ先ニスルモ亦減輕ヲ先ニスル
モ其損益相半スト雖モ但稍々加重ヲ先ニ
スルノ犯人ニ益アルヲ以テ加重ヲ先ニス
ルトニ定メタル所以ナリ

第七章 數罪俱發

第百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪
以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處斷
ス
重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト為シ刑

期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト為ス
輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷
ス

數罪俱ニ發スレハ一ノ重キ刑ニ從テ餘罪
ハ論セストスル法ハ表面ヨリ之ヲ見ル片
ハ頗ル道理ニ背反スル者ニ似タリ且ツ或
ル論者ハ數罪俱ニ發スレハ盡ク其刑ヲ科
ス可シト論スト雖モ種々ノ微罪ヲ集合シ
テ一ノ大罪ト見做シ重キ刑ヲ以テ之ヲ罰
スルハ真ニ道理ニ適セサル者トス何トナ
レハ其犯シタル罪固ト微罪ナルヲ以テ假
令數々之ヲ犯スニ至ルモ一ノ大罪ニ比ス
レハ自カラ公害ヲ為スコ微ク且ツ本犯自

已ノ道義心ヲ損スルコト薄ケレハナリ且又
 期限アル刑ハ盡ク併科スルヲ得ルモ若シ
 死刑又ハ無期徒流刑ノ如ク期限ナキ刑ニ
 至テハ到底他ノ刑ト併科スルヲ得サルヲ
 以テ爾餘ノ刑ヲ併科スルハ其權衡ヲ失フ
 ニ至ル者ナリ又各國刑法ニ於テモ稍々併
 科ニ似タル法アリト雖モ數罪ヲ併セテ幾
 年ニ過ルヲ得ス又其數罪中ノ最モ重キ刑
 ノ長期ニ處ス可シ等ノ定限アリテ盡ク數
 罪ヲ併セ科スルノ法ヲ用ヒタル者ヲ見ス
 其上數罪俱發スレハ一ノ重キニ從テ處斷
 スルハ本邦從來慣用ノ法ナルヲ以テ本條
 二罪以上俱ニ發スレハ一ノ重キニ從テ處

斷スルコトニ定メタル所以ナリ
 重罪ノ刑ハ定役アル者ト定役ナキ者トノ
 二種アリト雖モ其刑期錯綜セズ各其定限
 アリテ輕重ノ等級判然タルヲ以テ其定役
 ノ有無ニ論ナク刑期ノ長キ者ヲ重シト定
 メタリ故ニ輕懲役ハ定役アリト雖モ重禁
 獄ニ比スレハ其刑期短キヲ以テ此二罪ノ
 俱發スルハ一ノ重禁獄ニ從テ處斷スル
 者トス但タ其刑期ノ等シキ者ニ至テハ定
 役アル刑ヲ定役ナキ刑ヨリ重シトセサル
 ヲ得ス故ニ同期限ナル懲役禁獄ノ俱發ス
 ルハ一ノ懲役ニ從テ處斷スル者トス
 輕罪ノ刑タル禁錮ハ固ト十一日以上五年

以下ノ刑ナリト雖モ處刑ノ各本條ニ於テ
ハ例ハハ二月以上四年以下ノ重禁錮又ハ
六月以上三年以下ノ重禁錮ニ該ル刑アリ
及セ十一月以上一月以下ノ重禁錮又ハ一
年以上五年以下ノ輕禁錮ニ該ル刑等アリ
各其刑期ニ少區別アリテ其長期短期互ニ
相錯綜シタルヲ以テ此刑ニ就テ其輕重ヲ
定ムルコト殆ント難キ者トス故ニ此刑ニ該
ル罪ノ俱發スル片ハ但其所犯情狀ノ重キ
者ニ從テ處断スト定メサルヲ得ス故ニ其
數罪ノ盡ク重禁錮若クハ輕禁錮ニ該ル者
ハ其中ニ就キ最モ情狀ノ重キ一ノ罪ニ從
テ處断スルノミナラス重禁錮ハ固ト輕禁

錮ヨリ重カル可シト雖モ重禁錮ニ該ル罪
ト輕禁錮ニ該ル罪ト俱發スル片モ又此例
ニ從ヒ重禁錮ノ刑期短ク且ツ重禁錮ニ該
ル罪ノ情狀輕キ者ハ其重禁錮ヲ棄テ一ノ
輕禁錮ニ從テ處断セサルヲ得ス
又罰金ハ固ト禁錮ヨリ重キ刑ニ非スト雖
モ數多ノ罰金ヲ科スル罪ハ僅カノ禁錮ヲ
科スル罪ヨリ其情狀重カル可キ者アリ且
又一概ニ禁錮ヲ科スル罪ハ罰金ヲ科スル
罪ヨリ重シト謂フヲ得ス例ハ第百八十
一條及ヒ第二百五十條ノ如ク五圓乃至五
十圓ノ者アリ二十圓乃至二百圓ノ者アリ
右ノ如キ所犯情狀ノ重キ罪ト十一日以上

一月以下又ハ十五日以上二月以下ノ禁錮
ニ該ル罪ト俱發スル片ハ又其情狀ノ重キ
罰金ノ刑ニ從テ處斷セサルヲ得サル者ナ
リ

第百一條 違警罪ニ罪以上俱ニ發シタル時ハ
各其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シ
タル時ハ一ノ重キニ從フ

違警罪ハ其刑輕クシテ各之ヲ科スルモ甚
シキ刑ニ至ラス且ツ此罪ハ最モ犯シ易キ
罪ナルヲ以テ之ヲ併科スルニ非サレハ各
種ノ規則ヲ遵奉セシムルニ足ラス然ルノ
ミナラス若シ此刑ヲ併科セス一ノ重キニ
從テ餘罪ヲ除棄スト定ムル片ハ其刑輕キ

ヲ以テ翻テ多クノ規則ヲ犯シ犯人自己ノ
利益ヲ圖ラントスル弊アリ因テ此罪ノ俱
發スル片ハ各其刑ヲ科スル者トス然リト
雖モ若シ重罪輕罪ト俱ニ發スル片ハ一ノ
重輕罪ノ刑ノ其犯人ヲ懲戒スルニ足ルヲ
以テ違警罪ハ論セサル者トス

第百二條 一罪前ニ發シ己ニ判決ヲ經テ餘罪
後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セ
ス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ
後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該
リ己ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照
シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス
若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪

再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較
 シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス
 本條第一項ハ二罪以上ヲ犯シタル者同時
 ニ其罪發セスシテ前後兩度ニ其罪ノ發シ
 タルキノ處分ヲ示シタル者ナリ前後兩度
 ニ其罪發覺スルモ重罪輕罪ニ係ル者ハ前
 第百條ノ例ニ從ヒ重キ一罪ニ從テ處断セ
 サルヲ得サル者ナリ故ニ前ニ發シテ處断
 ヲ經タル罪重クシテ後ニ發スル所ノ罪輕
 ク若クハ等シキ者ハ其罪ヲ論セスト雖モ
 若シ後ニ發スル所ノ罪前ニ發スル所ノ罪
 ヨリ重キ時ハ其後ニ發スル所ノ重キ罪ヲ
 料セサルヲ得ス然ルニ前ニ發スル所ノ罪

輕シト雖モ一ノ重キニ從ヒ餘罪ハ除棄ス
 ル法ナルヲ以テ其前ニ發スル所ノ刑ヲ後
 ニ發スル所ノ刑ニ通算シ後ニ發スル所ノ
 刑ヨリ扣除セサルヲ得ス故ニ前ニ發スル
 所ノ罪四年ノ禁錮ニシテ後ニ發スル所ノ
 罪七年ノ懲役ニ該ル片既ニ前ニ發スル所
 ノ禁錮三年ヲ經過シタル者ハ其三年ヲ後
 ニ發スル所ノ七年ノ刑ニ通算シ更ニ四年
 ノ懲役ヲ執行セシムル者トス爾餘ノ刑皆
 此ノ例ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略セリ
 本刑法罰金科料ニ該ル者納完スルヲ能ハ
 サル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ禁錮拘留ニ
 換フルヲ以テ前ニ發シタル罪罰金科料ニ

シテ已ニ納完シタル者後ニ発スル罪懲役
禁錮ノ類ニ該ル片ハ其懲役禁錮ヨリ折算
ス可キ日數ヲ扣除セサルヲ得ス
又後ニ発スル所ノ罪同シク罰金ニ該ル片
ハ真子ニ其刑ニ通算スルノミ
然リト雖モ後発ノ罪無期ノ刑ニ該ル片ハ
其金額ハ犯人ニ還付セサルヲ得ス此レ自
カラ法理ノ然ラシムル所ノ者ナリ
第二項ハ二罪以上ヲ犯シタル者先ツ其一
罪発覺シ既ニ處断ヲ經ルノ後再ニ罪ヲ犯
シ其再犯ノ罪ヲ判決スルニ當リ未タ發セ
サル所ノ初犯ノ罪ノ發覺シタル片ノ處分
ヲ示シタル者ナリ此時ニ於テモ亦其初犯

ノ罪ト再犯ノ罪ト比較シテ重キニ從
テ處断ス可キ者トス故ニ若シ再犯ノ罪初犯
ノ罪ヨリ重キ片ハ其再犯ノ罪ニ從ニ處断ス
ルニヨリ前ニ發スル所ノ刑ヲ此ノ再犯ノ罪ニ
通算スルヲ得サルハ更ニ論ヲ待タスト雖モ
然ルニ其再犯ノ罪輕クシテ後ニ發スル所ノ
初犯ノ罪重キ片ハ其初犯ノ罪ニ從テ處断ス
可キヲ以テ前項ノ例ニ依レハ前ニ發スル所
ノ刑ヲ通算セサルヲ得スト雖モ此時ニ臨メ
ハ前項ノ如ク前ニ發スル所ノ刑ヲ通算スル
ヲ得サル者トス何トナレハ若シ前ニ發スル
所ノ刑ヲ通算シテ此後ニ發スル所ノ刑ヨリ
扣除スル片ハ輕キヲ以テ除棄セラレタル再

犯ノ刑ヨリ其刑期短キニ至ルヲ以テナリ例
ハハ前発スル所ノ罪禁錮三年ニシテ未タ發
セサル初犯ノ罪禁錮四年ニ該ル者ト再犯ノ
罪禁錮加ヘテ二年半ニ該ル者ト俱ニ發スル
片ハ初犯ノ罪重キヲ以テ其初犯ノ罪ニ從テ
処断スルモ前ニ發スル所ノ刑禁錮三年ヲ扣
除スル片ハ實際一年ノ禁錮ニ該ルヲ以テ再
犯ノ罪禁錮二年半ヨリ輕キニ至ル因テ前ニ
發スル所ノ刑ハ通算セサル者トス又前ニ發
スル所ノ罪十年ノ重懲役ニシテ未タ發セサ
ル所ノ初犯ノ罪有期徒刑ニ該ル者ト再犯ノ
罪輕懲役ニ該ル者ト俱ニ發スル片ハ再犯ノ
輕懲役ハ一等ヲ加ヘ重懲役ニ処スルモ初犯

刑法草案審査局

ノ罪ヨリ輕キヲ以テ初犯ノ罪ニ從テ処断
スト雖モ前ニ發スル所ノ懲役十年ヲ扣除
スル片ハ假令有期徒刑ノ長期十五年ヲ宣
告スルモ實際五年ノ徒刑ニ該ルヲ以テ再
犯ノ重懲役ヨリ輕キニヨリ前ニ發スル所
ノ刑ト通算セサル者トス是レニ罪俱發ノ
變例ナリ

第百三條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト

雖モ其沒收及ニ徵償ノ処分ハ各本法ニ從フ
人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スルハ人間交際
上ニ於テ一大緊要ノ事トス故ニ其損害ヲ
加ヘタル所為ノ罪トナル片其賠償ヲ免カ
ルハ一ヲ得サルノミナラス其罪ヲ免サレ

刑法草案審査局

又ハ全ク罪ト為ラサル所為ニ因リ加ヘタル損害モ亦其賠償ヲ免カル、ヲ得サル者ナリ又没收ス可キ物件ハ第四十三條第十四條ニ因レハ禁制ノ物件及ヒ犯罪ノ用ニ供シタル自己所有ノ物件並ニ犯罪ニ因テ得タル物件ニシテ所有主ノ知レサル者トス禁制ノ物件ハ世間ニ存在セシム可カラサル者ナリ又犯罪ノ用ニ供シタル物件ハ若シ其犯人ニ續テ之ヲ所有セシムルハ再ヒ罪ヲ犯スニ至ルモ亦知ル可カラス且ツ犯罪ニ因テ得タル物件ヲ其犯人ニ所得セシムルハ罪ヲ犯シテ利益ヲ得ルニ至ル者ナリ因テ數罪俱ニ發シ一ノ重キニ

從フキト雖モ贓物ノ還給損害ノ賠償并ニ裁判費用没收ハ各本法ニ從フニ定メタル所以ナリ

刑罰法草案 第一章 總則 第一節 正犯

第八章 數人共犯

第一節 正犯

第百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆

正犯ト為シ各自ニ其刑ヲ科ス

本章ハ全ク從來ノ法ト違ヒ西洋各國ノ法ニ擬シ新タニ創ムル所ノ者ニ係ル從來ノ法ハ數人ニテ罪ヲ犯スルハ造意者一人ヲ以テ首ト為シ餘人ハ皆從ト為シ首タル者ノ刑ニ一等ヲ減シ但各本條ニ於テ首從ヲ分タス罪ヲ科スト掲ケタル者ハ越獄犯竊懲役人逃ル等身自カラ犯スヲ以テ罪ヲ得ルニ係ル者ハ首從ヲ分タス一体ニ本刑ヲ科スル法ナリシ本章數人共犯スルハ先

ツ己レ自カラ現ニ犯罪ニ着手シタル者ヲ以テ正犯ト爲シ現ニ犯罪ニ着手スルニ非ス其正犯ヲ間接ニ補助シテ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ヲ附従ト爲シ正犯ニ一等ヲ減スルコトニ定メタリ
故ニ其正犯タル者一人ニ止ラス二人以上共ニ同意連合シテ現ニ犯罪ヲ犯シタルハ造意共謀ヲ分タス皆正犯ト爲シ其正犯中宥恕減輕酌量減輕及ヒ身分ニ因リ特別ニ加重減輕スル者等ヲ除クノ外共ニ同一ノ刑ニ処ス可キ者トス右ハ一人ニテ一罪ヲ犯スモ二人以上ニテ一罪ヲ犯スモ其罪ヲ犯ス心トスノ被ハル害トニ於テハ同一ナ

刑法草案 卷第一

ルヲ以テナリ且ツ時トシテハ二人以上ニテ罪ヲ犯セハ一人ニテ犯スヨリ其公害ヲ爲スコト多キヲ以テ犯人ノ多数ニ因リ特別ニ其刑ヲ加重スルコトアリ然ルニ同シク正犯ノ内ニ於テモ共ニ人ヲ殴打スルニ該リ一人臨時殺意ヲ起シ故殺ヲ爲ス者アリ又共ニ強竊盜ヲ行フニ該リ一人兇器ヲ携帯スル者アル等ニテ餘人ノ其故殺ヲ爲シ又ハ兇器ヲ携帯スルコトヲ知ラサル者ハ同シク正犯ナリト雖モ故殺及ヒ兇器ヲ携帯シテ強竊盜ヲ行フタル罪ニ坐セ又止メ通常ノ殴打殺傷並ニ強竊盜ノ罪ニ坐スルノミ本條二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正

刑法草案 卷第一

犯ナルヲ以テ同シク処断ス可キニ因リ同
一ノ刑ニ処スト記載ス可キヲ各自ニ其刑
ヲ科スト掲ケタルハ同シ身分ニシテ同シ
情状ヲ以テ同シ罪ヲ犯シタルハ固ヨリ
同一ノ刑ニ処スルハ論ヲ待タスト雖モ右
ニ掲クル如ク其正犯ノ内宥恕減輕酌量減
輕自首減輕并ニ身分ニ因テ特別ニ加重減
ト掲ケス各自ニ其刑ヲ科スト定メタル所
以ナリ
右ニ掲ケタル理由ナルヲ以テ共ニ罪ヲ犯
シタル正犯ハ同一ノ刑ニ処スルヲ本則ト
為スト雖モ内亂ニ関スル罪兇徒聚衆ノ罪

又モ貨幣ヲ偽造變造スル補助ヲ為ス者并
ニ二人以上共ニ人ヲ殴打創傷シタル者等
ハ又此ノ正犯ノ變例トス

第百五條

故意ヲ以テ人ヲ教唆シテ重罪輕罪

ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト為ス

本條ハ已レ自カラ犯罪ニ着手セスト雖モ

罪ヲ犯サシムルノ意ヲ以テ人ヲ教唆シテ

重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ヲ罰スルコトヲ

掲ケタル者ナリ人ヲ教唆シテ罪ヲ犯サシ

ムル者ハ其惡意ヲ構造スルコト現ニ罪ヲ犯

ス者ニ異ナルナシ且ツ人ニ罪ヲ犯サシメ

タル者ヲ正犯ト為シ處断スルハ若シ此教

唆ナキハ現ニ罪ヲ犯ス者或ハ其事ヲ獨

刑法草案

豫シ又ハ中コロ止ムルヤモ知ル可カラズ
 ト雖モ唯タ斯ノ教唆アルニ因リ畢ニ意ヲ
 決シテ其罪ヲ犯スニ至ルヲ以テ現ニ犯罪
 ニ着手セサルモ正犯ト為シ處断スル所以
 ナリ
 然ルニ人ヲ教唆スト雖モ若シ其教唆ヲ受
 ケシ者罪ヲ犯サハルルハ他ニ法律規則ヲ
 設テ別ニ教唆ニ止ル者ヲ罰スルニ非サル
 ハ本刑法ニ於テハ唯タ其教唆ニ止ル者ヲ
 罰スルヲ得サル者トス
 第百六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス
 可キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホス
 可ヲ得ス

本條正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可
 キキトハ例ハ二人以上ノ正犯ノ中一人
 再犯ニ係ル者アリ又二人以上共ニ往來通
 信ヲ妨害スルニ該リ一人其事務ニ關スル
 官吏アリ又二人以上共ニ人ヲ毆打割傷ス
 ルニ該リ一人其毆打劍傷ヲ受ケル者ノ子
 孫アル等ノキノ如シ再犯者官吏并ニ子孫
 等ハ各其身分ニ因リ刑ヲ加重シテ處断ス
 可シト雖モ他ノ正犯從犯并ニ教唆者ハ加
 重ス可キ身分ニ非サルヲ以テ假令其共犯
 中ニ加重ス可キ身分ノ者アルヲ知ルモ亦
 通常ノ刑ニ從ヒ處断ス可キ者トス
 本條ハ西洋各國ノ法ニナキ所ノ者ニシテ

刑法草案審査局

畢竟舊法ヨリ取用スル所ノ者ナリ甚ク道理ニ適シタル法ト謂フ可シ

第百七條 犯人ノ多数ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ヲ算入シテ多数ト為スコヲ得ス本條ハ人ノ住居ヲ犯ス罪并ニ強窃盗ノ罪等ヲ教唆シタル者ヲ云フ教唆者ハ現ニ罪ヲ犯ス者ニ非サレハ假令正犯ト為シ其罪ヲ論スルモ其現ニ罪ヲ犯ス場所ニ非サルヲ以テ二人以上ノ内ニ算入スルハ甚ク道理ニ適セサル者トス故ニ教唆者ヲ算入シテ人ノ多数ト為スコヲ得ヌト定メタル所以ナリ然ルニ初メ其犯罪ヲ教唆スルニ諛リ二人以上ニテ共ニ罪ヲ犯スコヲ知テ教

唆シタル所ハ其加重ノ刑ヲ免ルコトヲ得ス

第百八條 事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乗シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指定シタル所ト殊ナル時ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ処断ス

- 一 所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止テ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス
 - 二 所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス
- 本條モ亦舊法ヨリ取用スル所ノ者ナリ其教唆ニ乗シ指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又

ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シ
ル所ト殊ナル片トハ例ヘハ竊盜ヲ為ス
シトスヲ教唆シタル中其教唆ヲ受ケシ者
竊盜ヲ為スニ不便アルヲ以テ
又強盜ヲ為ス可シト教唆シタル片其教唆
ヲ受ケシ者強盜ヲ為サスシテ竊盜ヲ為シ
又脅迫ノ罪ヲ教唆シタル片其教唆ヲ受ケ
シ者殴打創傷ノ罪ヲ犯シタル片如シ唯
タ其教唆ノ効力ヲ論スル者ニシテ輕キ罪
ヲ教唆シタルニ教唆ヲ受ケシ者重キ罪ヲ
犯シタル片其重キ刑ニ処セサルヲ以テ
ス假令重キ罪ヲ教唆スト雖モ教唆ヲ受ケ
シ者輕キ罪ヲ犯シタル片ハ亦其輕キ刑ニ

刑法草案卷之四

處ス可キ者トス然ルニ初ノ人ヲ教唆シテ
罪ヲ犯サシメントスルニ其教唆ヲ受ケシ
者其教唆ニ乘セサル片ハ其罪ナキト更ニ
論ヲ待タスト雖モ一旦其教唆ニ乘シ一ノ
罪ヲ犯サント決心シ中コロ其罪ヲ犯スノ
意ヲ變シ例ヘハ詐偽取財ノ罪若クハ誣告
ノ罪ヲ教唆スルニ其罪ニ關係ナキ強姦又
ハ貨幣偽造ノ罪等ヲ犯シタル片モ亦其罪
ヲ論セサル者トス右ハ全ク其教唆ニ乘シ
テ罪ヲ犯シタリト謂フヲ得サルハナリ本
條ハ其教唆ニ乘シテ罪ヲ犯シタルヤ如何
ヲ審案スルト最モ必要ナルトス

第二節 從犯

刑法草案卷之四

第百九條

重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給

與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所為ヲ以テ

正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ

從犯ト為シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現

ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キキハ止

タ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

本條ハ前ニ解明シタル如ク正犯ヲ間接ニ

補助シタル者ヲ云フ其器具ヲ給與シ又ハ

誘導指示シ其他豫備ノ所為ヲ以テ犯罪ヲ

容易ナラシメタル者トハ皆現ニ其犯罪ニ

着手スルニ非ス但其正犯ヲ間接ニ補助シ

タル者ナルヲ以テ正犯ノ刑ニ一等ヲ減シ

テ處断スル者トス本條誘導指示ノ文アリ

ト雖モ固ト已レ自カラ發意シテ人ヲ教唆

スル者ニ非ス唯タ罪ヲ犯サントスル所ノ

正犯ノ意ヲ受ケ僅カニ誘導指示スル者ニ

シテ其情殆ント正犯ニ使用セラレシ者ノ

如シ例ヘハ阿片烟ヲ吸食セントスル者ニ

其吸食ノ方法ヲ教ヘシ者又ハ詐偽取財ノ

罪ヲ犯サントスル者ノ頼ミヲ受ケ詐偽ノ

證書ヲ造リ若クハ其文案ヲ教示シタル者

又ハ盜罪ヲ犯サントスル者ノ頼ミヲ受ケ

屋後ヨリ潛入ス可シ前面ハ戸ノ鎖鑰固ク

シテ入ル可カラスト指示シタル者又ハ強

姦ヲ行ハントスル者ノ頼ミヲ受ケ婦女ヲ

欺キ路上ニ出シタル者又ハ毒殺ヲ行ハン

トスル者ノ頼ミヲ受ケ其毒藥ヲ買與セシ
者ノ類ヲ云フ右ノ如ク正犯ニ器具ヲ給與
シ又ハ誘導指示シテ犯罪ヲ容易ナラシム
ルト雖モ若シ正犯ノ現ニ行フ所ノ罪從犯
ノ誘導指示シタル所ノ罪ヨリ重ク且ツ其
指示シタル以外ノ罪ヲ犯シタルハ前條
ノ例ニ從ヒ止タ其知テ誘導指示シタル罪
ニ照シテ一等ヲ減スル者トス

第百十條 身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯
ト為ル時ハ其重キニ從テ一等ヲ減ス
正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ
從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スルヲ得ス
本條ハ前第百六條ノ反對ヲ云フ者ニシテ

第百六條ハ自分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者
ト正犯トナルキヲ揭ケ本條ハ身分ニ因リ刑
ヲ加重ス可キ者從犯ト為ルコトヲ揭ケタル者
ナリ身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト
為ルキハ正犯ハ通常ノ刑ニ處スルト雖モ
通常ノ從犯ヨリ固ト重クシテ處断ス可キ
者ナルヲ以テ其重キニ從ヒ一等ヲ減スル
者トス此ノ場合ニ臨メハ從犯ノ受ク可キ
刑ハ固ト起科ノ本刑ト定ム可カラサルニ
ヨリ先ツ其從犯正犯タルハ如何ト假リ
ニ其刑ヲ擬シ其正犯タルハ如何ト假リ
減シテ處分ス可キヲ以テ例ハ正犯四年
以下ノ禁錮ニ該ルハ通常ノ從犯ナレ

刑法第百六條

真子ニ四年以下ノ刑ニ一等ヲ減シ三年以
下ノ禁錮ニ處ス可シト雖モ此ノ身分ニ因
リ加重ス可キ者從犯トナルハ其從犯若シ
各本條ニ於テ一等ヲ加フル者ナルハ先
ツ其四年以下ノ刑ニ一等ヲ加ヘ五年以下
ノ禁錮ニ擬シ其五年以下ノ禁錮ニ一等ヲ
減シテ處断スル者トス
又其正犯ニ宥恕減輕并ニ不論罪ニ該ル者
アリト雖モ從犯ノ罪ハ正犯ト同シク減免
スルヲ得ス前條并ニ前項ノ例ニ從ヒ正犯
ニ一等ヲ減スル者トス故ニ通常ノ從犯ナ
レハ正犯ノ受ク可キ刑ニ直チニ一等ヲ減
シ身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ從犯ナルハ

ハ重キニ從ヒ一等ヲ減スル者トス

第九章 未遂犯罪

第百十一條

罪ヲ犯サントシテ謀リ又ハ其豫備
ヲ為スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條
別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セ
ス

未遂犯罪トシテ罰ス可キ所ノ者ハ未タ其
事ヲ遂ルニ至ラサルモ已ニ其事ノ外面ニ
發露シテ人ニ損害ヲ加フルノ形状アル者
トス抑モ人ノ思想ハ無形ニ屬スルヲ以テ
假令中心惡念ヲ生シ其方法ヲ思考スルモ
其未タ外面ニ發露セサル者ハ何ヲ以テ之
ヲ其罪ヲ犯サントスルノ證據アリトスル

ヲ得シヤ然ルノミナラス今其惡念ノ一步
ヲ進メ既ニ罪ヲ犯サントスル意ヲ決シ其
豫備ヲ為スニ至ルモ未メ其事ヲ行ハサル
間ハ亦其豫備ノ形状アルヲ以テ罪ヲ犯ス
者ト想像シテ刑ヲ加フルヲ得サル者トス
何トナレハ通常犯罪ノ豫備ハ人間日常為
ス所ノ事ニシテ犯罪ノ豫備ニ非ス自家ノ
用ニ供セントスルモ計ラレサルヲ以テナ
リ例ヘハ夜中梯子ヲ買フ者アリ盜罪ノ豫
備ト為シ刑ヲ加ヘントスル乎火災豫防ノ
為メ買フ者ニシテ盜ヲ為スニ非サルヤモ
知ル可カラヌ又兵器ヲ懷ニシテ歩行スル
者アリ謀殺ノ豫備トシテ刑ヲ加ヘントスル

乎護身ノ為メナルヤモ知ル可カラヌ又鋤
鍬ヲ携ヘ墓地ヲ徘徊スル者アリ墳墓ヲ發
掘スルノ豫備ト為シ刑ヲ加ヘントスル乎
耕耘ノ帰路ニ非サルヤモ亦知ル可カラヌ
又火器ヲ携ヘ薄暮人ノ戶外ニ立ツ者アリ
放火ノ豫備ト為シ刑ヲ加ヘントスル乎是
レ亦買テ帰ル所ノ者ニ非サルヤモ知ル可
カラヌ若シ此等ノ事ヲ以テ一々人ヲ捕縛
シテ刑ヲ加フルキハ其寃罪ヲ被ムル者多
クシテ實ニ人民其生ヲ安スル丁ヲ得サル
ニヨリ通常ノ罪ハ未メ其事ヲ行ハサル者
ハ其刑ヲ加ヘサル者トス但シ國事ニ關ス
ル罪ニ至テハ通常ノ罪ト違ヒ國家ノ安危

ニ關スル者ニシテ若シ一旦其事ヲ舉ケタル
ルキハ國家紛亂シ人民塗炭ニ陥リ其禍實
ニ測ル可カラサルニ至ル者ナリ又此罪ハ
其犯サントスルノ意ヲ決シ陰謀協議ヲ為
スニ於テハ一人一己ノ惡念ヲ蓄フル比ニ
非ス其陰謀協議スル所人間日常為ス所ノ
事ニ非スシテ或ハ誓書ヲ作り暗誦ヲ製シ
又ハ檄文ヲ廻スノ類ニシテ犯罪ノ端緒ヲ
ルコト明白シ易キ者ナルヲ以テ其豫備ヲ為
スニ至ルヲ待タス既ニ陰謀協議シタルコ
ト發覺スルキハ直チニ其刑ヲ加フル者トス
本條別ニ刑名ヲ記載シ云々ハ此國事ニ關
スル罪ノ變例ヲ揭ケタル者ナリ

第一百十二條

罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行

フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ
未ダ遂ケサル時ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一
等又ハ二等ヲ減ス

未遂犯罪ハ前條ニ解明シタル如ク未ダ其
事ヲ遂ケスト雖モ已ニ其事ノ外面ニ發露
シテ人ニ損害ヲ加ヘントシタル者ナリ故
ニ其罪ハ免カルヲ得サル者トス然ルニ
此ノ未遂犯罪トシテ罰ス可キ者ハ左ノ二
類ニ區別シ其區別ニ從ヒ輕重ノ等級ヲ定
メ其刑ヲ分科セサルヲ得ス然ラサレハ其
推衡宜シキ者ニ非ス何トナレハ其犯罪ノ
初ヨリ其犯罪ヲ遂ルニ至ル迄種々ノ情狀

刑去事案審查局

アリテ自カラ其間ニ輕重ノ區別存在スル
ヲ以テナリ例ハ人ヲ銃殺セント欲シ已
ニ手銃ヲ以テ之ニ向フタルニ他人傍ヨリ
其手ヲ執ハ發放スルヲ得サラシメタル時
又刀ヲ以テ人ヲ殺サントスルニ已ニ其刀
ヲ上ケ一下兩断ト為サントスルニ臨ミ傍
人ニ阻止セラレ其刀ヲ下スコトヲ得サル時
又毒藥ヲ食物ニ和シ人ニ與ヘントスルニ
臨ミ其人滿腹ノ故ヲ以テ其食物ニ手ヲ就
ケサルカ若クハ他人ノ阻止スルニ因テ其
毒藥ヲ服セサル時又ハ盜罪ヲ行ハントシ
テ人ノ家屋ニ潜入シ正ニ財物ヲ取り去ラ
シトスルニ臨ミ事主ニ覺知セラレ其財物

刑法草案卷之四

ヲ得スシテ逃去シタル時其他總テ犯罪日
半途ニ於テ意外ノ障礙ニ因テ其罪ヲ遂ケ
サル者ハ已ニ其事ヲ行フト雖モ未タ其所
為ヲ盡ササルヲ以テ第一類ト為シ已ニ遂
ケタル者ニ二等又ハ三等ヲ減スルコトナ
シ前例ニ反シテ人ヲ銃殺セントシタル者
已ニ其銃ヲ放テタルニ何ソ圖ラン其彈丸
中ラサル時又ハ毒藥ヲ人ニ與ヘタルニ其
人直チニ消毒法ヲ行ヒ辛クシテ其死ヲ免
カレタルキ又ハ繩ヲ以テ人ノ首ヲ絞リ已
ニ免シタルト思ヒ其所ヲ逃去セリ跡ニ於
テ他人其繩ヲ解キ換生シタル時又ハ盜罪
ヲ犯シ假令事主ニ直チニ取還セララルモ

刑法草案卷之四

一旦其財物ヲ得タル時等凡此等ノ事ハ已ニ其所為ヲ盡シタルヲ以テ意外ノ舛錯ニ因リ遂ケサル者トシ第二類ニ入レ已ニ遂ケタル者ニ一等又ハ二等ヲ減スルコト定ム可シト論スル者アリ誠ニ能ク犯罪ノ情状ヲ探リタル者ト謂フ可シ既ニ司法首上申ノ刑法草案ニ於テハ右ノ區別ニ從ヒ第一類ヲ重罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行ヒ未ダ遂ケサルノ際本犯意外ノ障礙ニ因リ之ヲ中止シタルキハ已ニ行フテ事ヲ遂ケタル者ノ刑ニ二等又ハ三等ヲ減スト定メ第二類ヲ重罪ヲ犯サントシテ已ニ其所為ヲ盡スト雖モ事後意外ノ舛錯ニ因リ其

刑法草案卷本

目的ヲ遂ケサルコトハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減スト定メたり然ルニ總テノ犯罪ニ就キ考察スルハ第一類ニ入ル可キ犯罪ノ半途ニ於テ意外ノ障礙ニ因リ其罪ヲ遂ケサル者ハ多クアル可シト雖モ第二類ノ如キ已ニ其所為ヲ盡シタル後意外ノ舛錯ニ因テ其罪ヲ遂ケサル者ノ如キハ謀殺毒殺ノ外多クアル可キ者ニ非ス且又其謀殺ニ於テモ刀ヲ以テ殺サントスルト銃ヲ以テ殺サントスルト同シク人ヲ殺サントシタル者ナルニ其刑ノ權衡ヲ得サル者アリ前例ニ依レハ刀ヲ以テ人ヲ殺サントシ已ニ其刀ヲ下スト雖モ

刑法草案卷本

若シ其刀敵手ノ躰ニ觸レス假令躰ニ觸ル
モ其傷輕クシテ未タ敵手ヲ殺スヲ得サ
ルノ際他人ニ阻當セラレ終ニ其罪ヲ遂ケ
サルハ意外ノ障礙ニ因テ遂ケサル者ト
ナシニ等又ハ三等ヲ減シテ處断シ若シ又
銃ヲ以テ入ヲ殺サントシタルハ假令敵
手ニ中ラサルモ已ニ其銃ヲ放チタルハ
意外ノ舛錯ニ因テ遂ケサル者ト為シ一等
又ハ二等ヲ減シテ處断ス可ト謂ヘリ此
レ其推衡ヲ得サルノ一ナリ又銃殺ノ一例
ニ於テモ既ニ一度發放シタルニ其中ヲサ
ルヲ見テ再ヒ發セントスルニ臨ミ人ニ阻
止セラレタルハ如何意外ノ舛錯ニ非ス

シテ意外ノ障礙ト謂ハサルヲ得ヌ此レ其
推衡ヲ得サルノ一ナリ且又盜犯ノ一旦其
財ヲ得タル者ハ直チニ取還サルモ意外
ノ障礙ニ因テ遂ケサル者ニ非ス意外ノ舛
錯ニ因テ遂ケサル者ナリト謂フト雖モ其
既ニ財物ヲ持チ去ル者ハ盜罪ヲ遂ケタル
者ナルヲ以テ暫ク論ヤス例ヘハ其財物ヲ
獲取セントシ其盜所ヲ動カスヤ否ナ直チ
ニ事主ニ捕獲セラレ又一旦盜所ヲ動カス
モ狼狽シテ直チニ其財ヲ捨テ逃去スル者
ノ如キハ一概意外ノ舛錯ニ因テ遂ケサル
者ニ引擬スルヲ得ヌ
右ニ掲ケル如ク總テ罪ヲ犯ス者ハ其之ヲ

刑去上卷卷第拾壹司

犯ス時ノ景況ニ因リ其情狀錯雜シテ判然
意外ノ障礙及ヒ意外ノ舛錯ノ二類ニ區別
シ難キ者アリ故ニ本條ハ司法省上申ノ法
案ニ依ラス各國刑法ノ成文ニ從ヒ障礙舛
錯ノ二類ヲ一條ニ纏メ一等又ハ二等ヲ減
スト定メタル者ノ如シ
且ツ司法省上申ノ法案ニ於テハ本犯ノ真
心悔悟ニ因テ自ラ其罪ヲ遂ケサル時及ヒ
事物ノ性質施用ノ方法ニ於テ害ヲ為スノ
理ナク若クハ害ヲ為スト雖モ本犯ノ目的
ヲ遂ク可キ理ナキ片ハ未遂犯罪ヲ以テ論
セス止メ現ニ加ヘタル毀傷損害ノ罪ヲ論
スト未遂犯罪ノ變例ヲ二條ニ分テ記載セ

リ然ルニ本條意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因
テ未タ遂ケサル片ト記載スルニ於テハ其
真心悔悟ニ因テ自ラ其犯罪ヲ遂ケサル者
ハ未遂犯罪ノ性質ニ非サルト言外ニ判然
セリ故ニ其所為ノ更ニ害ヲ遺サ、ル片ハ
其罪ヲ論セサルト言ヲ待タス若シ又害ヲ
加ヘタル後悔悟シテ自カラ其罪ヲ遂ケサ
ル者ハ其加ヘタル害ニ就キ各其刑名アル
本條ニ依リ處分スルヲ得ルヲ以テ此ノ真
心悔悟ニ因テ云々ノ條ハ削除シタル者ノ
如シ又事物ノ性質施用ノ方法ニ於テ害ヲ
為スノ理ナク若クハ害ヲ為スト雖モ本犯
ノ目的ヲ遂ク可キ理ナキ片ハ止メ現ニ加

ヘタル毀傷損害ノ罪ヲ論スト掲ケタリト、
雖モ例ヘハ茲ニ人アリ己レノ敵手ヲ毒殺
セント欲シ毒物ト思ヒ間々錯テ餘物ヲ服
セシメタリ因テ其敵手ニ於テハ更ニ害ヲ
受ケサリシ此レ即チ事物ノ性質ニ於テ害
ヲ為スノ理ナキ者ナリ然ルニ若シ其犯人
ヲ不問ニ置カントスル予危険ノ甚シキ者
ナリ又銃ヲ放テ人ヲ殺サントスルニ錯テ
彈丸ヲ裝セサルニヨリ其敵手ニ害ヲ被ラ
シメサリシ此レ即チ施用ノ方法ニ於テ害
ヲ為スノ理ナシト雖モ又其犯人ヲ不問ニ
置クハ甚タ道理ニ適セサル者ナリ右等ノ
理由ニ因リ此ノ條モ亦削除シタル者ノ如

刑法草案

シ故ニ若シ實際此等ノ事ノアルニ臨メハ
其事タル甚タ危険ニ涉ル者ナルヲ以テ未
遂犯罪ト為シテ論シ酌量減等ヲ與フルノ
外法律上他ノ恩典ヲ與ヘサル者トス
第百十三條 重罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサ
ル者ハ前條ノ例ニ照シテ處断ス
輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ本條
別ニ記載スルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ
處断スルヲ得ス
違警罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ其
罪ヲ論セス

重罪ハ其罪ヲ犯サントセシ初ヨリ其之ヲ遂
ルニ至ル迄多少ノ猶豫アリ且ツ此ノ罪

刑法草案

ハ專ラ其所為顯然ニ屬スルヲ以テ容易ニ
之ヲ認知スルヲ得ルニ因リ殴打創傷ノ
罪偽證ノ罪等ノ如ク未遂犯罪トシテ罰ス
可キ猶豫ナキ者ヲ除クノ外總テ其犯サン
トシテ遂ケサル者ハ前條ノ例ニ照シ處斷
スル者トス

然ルニ輕罪ハ其為ス所輕淺ニシテ未遂犯
罪トシテ罰ス可キ猶豫アル者甚々寡ナシ
且ツ其罪ヲ犯サントスル所為タルヲ判然
タラサル者多シ例ヘハ人ノ住所ヲ侵ス罪
公務ヲ行フヲ拒ム罪、身分ヲ詐稱スル罪人
ヲ脅迫スル罪等ノ如ク已ニ人ノ住所ヲ侵
シ公務ヲ拒ミ身分ヲ詐稱シ人ヲ脅迫シタ

ル後ニ非サレハ其罪ヲ犯サントセシヤ否
ナ未ダ知ル可カラヌ故ニ輕罪ハ各本條ニ
於テ別ニ其遂ケサル者ヲ罰スルコトニ定メ
タル者ニ非サレハ重罪ト均シク處斷ス可
カラサル者トス其各本條ニ於テ此罪ノ未
ダ遂ケサル者ヲ罰スルコトニ定メタル者ハ
竊盜詐偽取財墳墓ヲ突掘スル罪私印私書
ヲ偽造スル罪官印ヲ偽造スル罪往來通信
ヲ妨害スル罪銃砲彈藥ヲ私造スル罪囚徒
逃走ノ罪等トス此等ノ罪ハ其犯サントス
ル所為タルヲ判然シ易ク且ツ其罪ヲ遂ル
ニ至ル迄多少ノ猶豫アル者ナルヲ以テ未
ダ其罪ヲ遂ケヌト雖モ亦前條ニ照シ已ニ

刑部
法律
審判
司

遂ケタル者ニ一等又ハ二等ヲ減シテ処断スル者トス
違警罪ハ過誤ニテ犯ス者ト雖モ其刑ヲ免カル、コヲ得サル者ナリ且ツ此ノ罪ハ其故意ニ出ルモ専ラ各種ノ規則ニ違背シ又ハ怠テ其規則ヲ遵奉セサル者ニ係ルヲ以テ其犯サントシテ遂ケサル者ヲ識認スルコト甚ク難ク且ツ稍々其犯サントシテ遂ケサル者ト識認シ得ルコトアルモ畢竟此ノ罪ハ極テ輕キ者ナルニヨリ其犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ不問ニ置ク者トス

第十章 親屬例

第百十四條 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左

- ニ記載シタル者ヲ云フ
 - 一 祖父母父母夫妻
 - 二 子孫及ヒ其配偶者
 - 三 兄弟姉妹及ヒ其配偶者
 - 四 兄弟姉妹ノ子及其配偶者
 - 五 父母ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者
 - 六 父母ノ兄弟姉妹ノ子
 - 七 配偶者ノ祖父母父母
 - 八 配偶者ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者
 - 九 配偶者ノ兄弟姉妹ノ子
 - 十 配偶者ノ父母ノ兄弟姉妹
- 第百十五條 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母嫡母同シ

子孫ト稱スルハ庶子曾玄孫外孫同シ兄弟姉妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姉妹同シ養子其養家ニ於ル親屬ノ例ハ實子ニ同シ從來ノ制タル五等親ノ法ハ今日ノ情休ヲ以テ之ヲ觀レハ其親キ者モ疎ニ過キ且ツ其法ニ之ヲ掲ケサル者アリ又疎ナル者モ掲ケテ親シキ者ノ上ニ置クコアル等其時情ニ適セサル者甚々多シ故ニ本刑法ハ歐洲各國ノ法ヲ折衷シ本屬親ニ於テモ疎ナル者ハ之ヲ除キ姻屬親ニ於テモ親シキ者ハ之ヲ掲ケタリ尤モ茲ニ掲クル親屬例ノコハ犯罪相容陰スルヲ得ルコト及ヒ危急相救フヲ得ルコト等但刑法上ニ關係スル者ヲ

掲ケ喪服其他一般ノ民法ニ關係シタル者ニ非サルヲ以テ頗ル其親屬ノ數ヲ減シタル者ナリ各本條ニ於テ此親屬例ニ因ル可キ者ハ第七十五條第百五十三條第百四十四條第百五十五條第百六十一條等トス然ルニ第三十一條ノ親屬ニ就テハ恐ラクハ民事ノ規則ニ讓リ此親屬例ニ因ラサル者ト思考セラレタリ其第三百七十七條第三百八十七條及ヒ第三百九十八條ニ記載シタル親屬ハ亦此親屬例ニ因ラサルヲ以テ別ニ其例ヲ掲ケタル者ナリ

刑部

[Faint vertical text in a red-lined grid]

刑部

